

看護部

はじめに

令和6年度は、当館として①病院機能評価等の各種受審②診療報酬改定への対応③第21回日本医療マネジメント学会九州・山口連合大会開催の3項目において、看護部及び病棟の目標達成など看護部職員全体で取り組んだ1年であった。

事項からは、看護部目標に沿って述べる。目標1の看護師と看護補助者と協働推進では、各部署でナースエイドの業務体制を整理し、OJTを実施した。その結果、清潔ケア5項目について、看護師と共に実施は71.6%、ナースエイド単独では29.9%となった。

この取組みの中で、急性期病院としてのナースエイドとの「協働」の方針を明確にした。『看護師としての判断を要さない看護補助業務』と『看護業務である「療養上の世話」を看護師と共に実施する』両方を看護師とナースエイドが協働して実施していく方針とした。

また医療DXでは、患者説明の動画化に向けシステムを導入し、2月から4種類の入院時の動画説明を開始した。

目標2のDPCⅡ期間最終日での退院では、全部署が医師と協働して取組み、DPCⅡジャスト率59.2%（前年50.1%）と上昇した。それに加え病床管理を徹底したことで、病床利用率82.3%（目標78.7%）、稼働率92%（目標87%）と目標を大きく上回った。

令和6年度診療報酬改定では、小児入院管理料4⇒3、その他看護に関する2つの加算を取得した。身体的拘束最小化では、診療報酬改定に対応するために、看護部と精神科医師と協働し、指針やマニュアル及び記録を整備した。身体的拘束の最小化や回避に向け、病院全体で取り組むことができるように、身体的拘束最小化チームが発足となった。

目標3の個々人がキャリアを意識する支援体制では、各部署でのキャリア支援に加え、看護部としてのキャリア支援を強化した。意向調査結果から約20名の看護師に対して面談を行い、自身の今後のキャリアプランを明確にした。また副看護師長58名に対しても面接を行い、次世代看護師長への動機づけを行った。効果的な経験学習支援では、看護部教育に経験学習支援の手法である「認知的徒弟制」を導入し、実地指導者がOJTの中で実践した。そ

れに加え全部署の看護師長、副看護師長が中心となり、認知的徒弟制に基づく教育計画やOJTを実施したことで、経験学習支援の促進に繋がった。

その他新人看護職員教育では、OJT充実のために10年以上続けた教育体制の再構築をした。パルサポーター（精神面支援）やクリニカルコーチ（技術面の支援）など新たな名称と役割を付与し、次年度から新体制で新人看護職員教育を実施する予定である。

目標4のデータを活用した看護の質向上では、部署目標として医療安全、手指衛生、褥瘡の3項目を目標に掲げ、各部署で改善計画を立案・実践した。インシデント報告数が1.3（1,740件R5年度⇒2,320件R6年度）倍に増加する等一定の成果があった。しかし手指衛生では、実施率60%と病院目標70%を達成することが出来なかった。多くの職員が病院の空間を分類する「医療エリアと患者ゾーン」の理解に難渋し、今後の課題となった。

目標5では、病院機能評価3ndGVer3.0を受審し、B評価3項目以外すべてA評価を受けた。第21回日本医療マネジメント学会九州・山口連合大会では、看護部から19演題発表し、今年度学会等の発表は38件であった。

<令和6年度の看護部門目標>

1. 業務改善、業務整理の推進
 - 1) 看護師と看護補助者との協働推進
 - ・協働による看護提供ができる仕組みづくり
 - ・看護補助者への現場教育の強化
 - 2) 医療DXの推進
 - 3) 適正な時間管理の継続
 - ・個々人の時間管理の強化
 - ・年次有給休暇取得の平準化（8日以上取得）
2. 健全経営への積極的な参画
 - 1) DPCⅡ期間最終日での退院の強化
 - 2) 病院目標を意識した病床管理
 - ・病床利用率 78.3%
 - ・病床稼働率 87.0%
 - ・DPC期間Ⅱ超率30%未満
 - 3) 令和6年度診療報酬改定への取組み
 - ・夜勤従事者及び看護補助者の安定確保と配置
 - ・身体拘束最小化に向けた仕組みの構築

3. 学習する組織を目指したキャリア支援

- 1) 個々人がキャリアを意識できる支援体制強化
- 2) 「自己教育・研究能力」向上のための活動発表促進
- 3) 効果的な経験学習が実践できる体制整備
 - ・実地指導者の育成
 - ・中間管理職による経験学習支援

4. 看護の専門性の発揮

- 1) データを活用した看護の質向上
 - ・インシデント報告関連
 - ・手指衛生実施関連
 - ・褥瘡関連予防対策向上関連
- 2) 専門・認定看護師、特定行為研修修了者の活動の見える化

5. その他

- 1) 令和6年7月病院機能評価受審への対応
- 2) 効果的な実習環境の整備
(文責：宮地 由美子)

3) 免許所有者

看護師免許	601名
助産師免許	32名
保健師免許	39名

4) 離職率（日本看護協会実態調査算出法）

令和6年度 8.4%（前年度 4.7%）

5) 職員状況

- ・平均年齢 35.3歳（前年度 35.4歳）

*再雇用10名除く

年 齢	人 数
20歳～29歳	207(36.4%)
30歳～39歳	155(27.3%)
40歳～49歳	141(24.8%)
50歳～59歳	65(11.4%)
60歳～	10(1.7%)
合 計	568名

- ・男性看護師 56名 9.3%（前年度 9.0%）
- ・平均勤務年数 9.3年（前年度 10.3年）
- ・既婚率 52.6%（前年度 52.4%）

I. 看護職員に関すること

1. 看護部職員構成等（令和6年4月1日現在）

1) 助産師・看護師数	601名
助産師	22名
看護師	579名
期限付看護師	(13名)
臨時看護師	(10名)
・4/1付採用 助産師・看護師	46名
内訳) 助産師	新卒： 1名
	既卒： 0名
看護師	新卒： 41名
	既卒： 4名

2) 看護部組織

看護師・助産師	601名
ナースエイド	62名
病棟クラーク	12名
外来受付事務	13名
院内ポーター	4名
病棟保育士	1名
ボランティアコーディネーター	1名
期限付事務	1名
総計	695名

2. 妊娠・子育てに関する支援

《育児休業の状況》

項 目	令和6年度	前年度
育 児 休 業 取 得	87名 今年度入 36名	77名 今年度入 34名
年 間 休 業	23名	20名

《育児休業復帰者の状況》

項 目	令和6年度	前年度
育 児 休 業 復 帰	31名	33名
平均育児休業期間	15.7か月	18.1か月

《妊娠・育児に関する支援制度利用状況：延べ》

項 目	令和6年度	前年度
育児休暇	19名	20名
育児部分休業	45名	50名
育児短時間勤務	49名	33名
合 計	113名	103名

《深夜勤務制限の状況》

項 目	令和6年度	前年度
深夜勤務制限（育児）	10名	11名
深夜勤務制限（妊娠）	6名	12名

3. 看護職員採用に関すること

令和6年度は助産師・看護師を46名採用した。働き方改革促進により育児休業や育児部分休業・育児短時間勤務利用者は、5年前に比べ約2倍に増加しており、子育て支援は年々充実してきている。また、離職率が8.4%と高くなり全国平均の11.1%（日本看護協会 病院看護実態調査結果）に近づきつつあることを鑑み、今後の人材確保のため就職説明会を2回実施した。併せて看護学院へ往訪し説明会を実施するなど採用活動を強化した。

看護補助者の採用については、年度当初からクランクの不足が課題であり、ハローワーク等の協力を得て4名を採用した。また、ナースエイドの募集活動として看護学校で就職説明会を実施しトワイライトナースエイドを21名採用した。加えて夜勤ができるナースエイド4名を期限付職員とするなど夜勤時間の確保に務めた。

（文責：淵上 直子）

Ⅱ. 活動実績

1. 看護部

看護部目標の達成に向け、取り組んだ内容をまとめると共に、取り組んだ事柄について併せて述べる。

1) 労務に関すること

中間管理職の労務管理に関する知識強化は、前年度から取り組んでおり、総務担当副看護師長は、「労務早わかり一覧」を活用し勤務表作成に取り組んだ。勤務表作成は、勤務時間管理や看護ケアの質担保、休日・休暇の取得促進など副看護師長がワークライフバランスについて学ぶ良い機会となった。

①時間管理について

今年度も適正な時間管理の取り組みを継続した。夜間管理看護師長への報告も含めた、ルールに基づく時間外勤務申請はスタッフレベルに浸透し実践されている。

②休日・休暇について

年次有給休暇の取得は、全部署が計画的に長期休暇取得に取り組み、5日間の取得に加え3日の年次有給休暇取得も進めた。

この取り組みは、今後も継続する。

③子育て・介護支援について

子育て支援については、育児休業復帰者との面接にママナースカルテを活用し、育児状況や勤務希望を配属部署と共有することで個々に応じた支援を行った。また今年度は、「仕事と妊娠・

子育て・介護両立のための支援制度」を人事・労務係と協働でバージョンアップし、館内で広く活用できるよう、総務担当福看護師長と共に説明会を実施した。特に男性職員の産後パパ育児・育児休業取得促進のために取得例を可視化し相談に応じることで、男性看護師5名のパパ育児取得に繋がった。近年、育児休業中に産前休暇に入るケースが7名と増加傾向にあり、休業期間が長期化してきている。看護師が長く働ける職場環境整備という点で、適切な支援体制整備が今後の課題と考える。

また、社会の高齢化に伴い、看護部でも親の介護を行いながら働くスタッフが増加している。介護の状況は様々であるため面談を行い、共に考え個々に適した介護支援を受けられるよう取り組んだ。

（文責：淵上 直子）

2) 業務改善に関すること

(1) 診療報酬改定に伴う取り組み

①夜勤従事者及び看護補助者の安定確保と配置

令和6年度も夜勤要員を確保し、看護職員夜間16:1配置加算の維持に努めた。子育て支援の充実などに伴い、診療報酬の要件である月平均夜勤時間72時間以下の維持が難しくなることが予測され、前年度から取り組んでいる夜勤専従看護師の定着にも力を入れた。特に新人看護師の夜勤が軌道に乗るまでの4～6月と年度末退職の2～3月は、チームで夜勤専従者が2名となる部署もあり、全部署に定着したといえる。

看護補助者夜間100対1についても安定して取得し続けられるよう、看護学院の1年生をトワイライトナースエイドとして採用した。しかし、実習の時期には夜勤時間確保に難渋するため、夜勤が出来るナースエイドの確保に継続して取り組む。

（文責：淵上 直子）

②身体拘束最小化に向けた取り組み

令和6年度診療報酬改定において、「身体的拘束を最小化する取組の強化」が示され、組織的な対応の重要性が施設基準として求められた。これを受けて、当館では看護部を中心に、精神科・石井医師の助言のもと、身体拘束に関する考え方、方針、体制の整備を行った。体制では実務を担う「身体的拘束最小化チーム」を立ち上げ、各部署との連携体制を

構築した。これにより、患者の尊厳および安全を最優先に、身体拘束の回避および最小化に向けた組織的な取り組みをすすめている。

今後は、スタッフ教育や事例検討、多職種連携による対応の質の向上を図り、身体拘束の最小化に向けた実効性のある活動を継続していく予定である。

(文責：伊東 美知代)

(2) 病院機能評価受審に向けた取り組み

令和6年7月、今回で5回目となる病院機能評価を受審。看護部では評価項目に基づく解説集を活用し、各項目について自己評価を行いながら、必要な改善を段階的に進めてきた。病棟ラウンドを通じて、安全管理や感染対策を含めた環境確認を実施し、併せて各部署では、記録物の確認をした。受審対象となった部署は、7階西病棟、7階東病棟、6階東病棟、4階東病棟、加えて今年度より緩和ケア病棟が副機能病棟として受審に臨んだ。ケアプロセスの確認だけでなく、カルテレビューに向けた準備にも重点を置き、医師をはじめ、多職種の職員が一丸となり、全院的な取り組みとして進めた。

病院機能評価の受審は、医療の質と安全の継続的な向上を図る上で重要な機会であり、今回の取り組みを通じて職員一人ひとりの「私たちの病院」という組織への帰属意識や自覚がより一層強まった。前回の評価時に指摘された事項をふまえ、継続的な改善と質の向上に努めてきたことは、今後の病院運営においても大きな礎となると考える。

(文責：伊東 美知代)

3) 病床管理

令和6年度は、病床利用率・稼働率が高水準となることもあり、ベッドコントロール指標が策定された。電子カルテポータル画面を用いてリアルタイムにベッドコントロール指標を表示することで全職種の協力が得られるようになった。

令和6年度診療報酬改定の「ポストコロナにおける感染症対策の推進」に関しては、当館における特定感染症の病床管理体制を整理し、特定感染症患者の病床管理を行った。

ベッドコントロール指標

レベル 0	【通常体制】 DPCIIを遵守することが基本	レベル 2③	【急患制限】 CPAも受けない
レベル 1	【退院促進】 DPCIIを無視して 早期退院をめざす	レベル 3①	【予定入院延期】 延期可能な症例 から延期
レベル 2①	【急患制限】 3次は受ける	レベル 3②	【予定入院延期】 すべての症例 を延期
レベル 2②	【急患制限】 3次は受けないが CPAは受ける		

(文責：下村 聡美)

4) 教育に関すること

①学習する組織を目指したキャリア支援

令和6年度はキャリアラダーレベル認定を以下の通り行った。

キャリアラダー レベル	認定者数	令和3年度 からの合計 *退職者除く
I	22	60
II	34	91
III	19	62
IV	4	15
計	79 (前年度-2)	228

令和3年度からキャリアラダーを導入し、現在228名が認定を受けている。暫定レベルからレベル認定に向けて、レベル取得の要件をクリアする為に時間を要している現状がある。

病院の理念にある最良の医療を提供する為に、看護職キャリアラダーの基盤となる「看護の核となる実践能力」「組織的役割遂行能力」「自己教育・研究能力」の3つの能力が向上できるよう支援を継続する

(文責：池田 恵子)

②中間管理職研修

前年度に新人看護職員研修における集合研修から現場教育までの繋がりや実地指導者の活用に関する課題があった。

今年度は、「実地指導者の役割を理解し、部署の新人看護職員教育体制づくりができる」を目標に取り組んだ。対象は看護師長20名、副看護師長57名とし、看護部長と副看護部長が支援した。

研修は5月に実地指導者の役割と認知的徒弟制を活用した指導方法等について学習した。以

降は部署別に実地指導者を活かした新人看護職員教育体制づくりを考え、部署での取組みを行った。部署別新人看護職員年間教育計画作成が6部署、認知的徒弟制を用いた指導体制づくり7部署、現場教育の充実に3部署が取組み、令和7年1～2月に報告会を実施し共有した。

次年度はこの取組みを活かして、実地指導者が役割を遂行し、集合研修から現場教育へと繋がりがある教育体制の構築を目指す。

(文責：池田 恵子)

5) 看護補助者の活用

今年度の看護部目標であった「業務改善、業務整理の推進」を掲げ、業務担当副看護師長会議と業務改善委員会を中心に「看護師と看護補助者との協働推進」に取り組んだ。

目標1：看護補助者と協働してケアの提供ができる仕組みづくり

看護補助者は看護チームの一員として重要な役割を担っている。当館の急性期病院としての機能をふまえ、看護補助者と看護師の役割を明確にし、協働体制の構築を推進した。その一貫として「看護補助者マニュアル」を改訂して、看護補助者としての職務規程、業務体制、教育体制について明確化を図るとともに看護師と看護補助者との協働の意義、指示に対する責任の所在について共通理解の促進に努めた。

目標2：看護補助者への現場教育の強化

看護補助者の現場での教育体制の強化をめざし、部署において実践的な指導とフィードバックの機会を設けた。今後も看護師と看護補助者の連携強化を通じて、業務の効率化と質の高いケアをめざしていく。

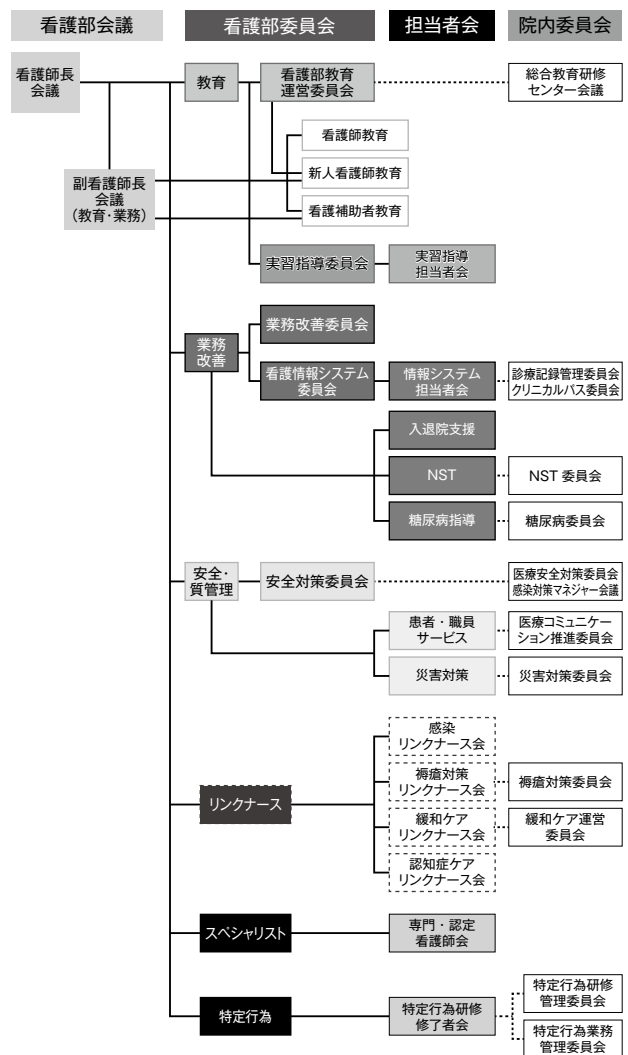
(文責：伊東 美知代)

2. 看護部委員会およびリンクナース

看護部の会議や委員会、担当者会の役割と位置づけ、院内委員会について「看護部会議・委員会・担当者会組織図」として表し活動した。

佐賀県医療センター好生館 看護部会議・委員会・担当者会組織図

令和6年4月1日



(文責：淵上 直子)

1) 看護部教育運営委員会

目標：令和7年度新人看護職員教育の再構築に向けて実地指導者が役割を遂行できる体制をつくる

今年度の看護職員研修は、キャリアラダーに沿った65項目を企画・運営し、看護職・看護補助者延べ1,729名が受講した。

また、次年度に向けて新人看護職員教育体制を再構築した。実地指導担当者を「クリニカルコーチ」として1対1で新人看護師とペアリングし役割と名称を付与し、次年度から新体制で新人看護職員教育を実施する予定である。役割を明確にすることで、指導の標準化が可能となり、1年を通して継続的に関わることで認知的徒弟制による経験学習支援が充実し、Off-JTからOJTへの連動が強化できることを期待する。

(文責：寺田 恭巳子)

2) 実習指導委員会

目標：実習指導過程評価表を作成し、指導の振り返りを行う

実地指導者であるスタッフが、実習指導者の役割を理解し、効果的な関わりが出来るよう、スタッフ教育に取り組んだ。実習指導に必要な姿勢や心構えを踏まえ、4段階評価で実習指導過程評価表を作成、実習指導担当者の自己評価から、点数が低い項目について検討した。学生が求めてきたことに対してはよく関わっているが、学習方法のアドバイスなど積極的な支援が不足している傾向にあった。

2回目の評価では、27項目中、11項目は「あまり出来なかった」「全く出来なかった」の評価はなく、自己評価を通して実習指導担当者の役割を再確認でき、行動変容へ繋がった。学校側からも指導者からの言葉掛けが増え、よい学びになっているとの意見が聞かれた。

次年度も効果的な実習指導が出来るよう定期的な評価を継続し、実習環境の整備に努めていく。

(文責：江頭 望)

3) 業務改善委員会

目標：看護補助者と協働してケアの提供ができる仕組みをつくる

今年度は、看護職と看護補助者が協働してケアの提供ができるように、看護補助業務実践調査と看護師と看護補助者のケア協働の仕組みづくりを行った。調査の結果、看護補助者のケア実践状況が昨年度より向上し清潔ケアを看護師とともに実践できるようになった。部署でのOJTを継続できるよう、業務担当副看護師長と協力し実践に繋げることができた。また、看護補助者との協働の意味や指示の責任など、好生館での協働の在り方を検討し明文化することができた。業務内容や教育体制など活用できる看護補助者マニュアルの内容を検討中のため、次年度の課題である。

(文責：倉谷 実希)

4) 看護情報システム委員会

目標1：文書管理における登録文書の実態把握
2：看護記録監査の推進

電子カルテ内の文書管理の実態把握の一環として、現在看護部にある文書を文書種類の定義ごとに分類し整理した。看護記録監査の

推進として、新たに毎月退院患者を対象としたQlikSenseによる自動形式監査体制を構築した。2024年度は、看護記録形式監査325件、看護記録質監査333件、QlikSenseによる看護記録形式監査7,011件を実施し、結果を各部署にフィードバックした。監査を行うことで自己の看護や記録を振り返り、部署の傾向を知る機会となった。QlikSenseによる形式監査体制の構築により、看護記録監査の年間スケジュールと看護記録質監査表を改訂し、看護記録マニュアルの同時改訂を行った。また、標準看護計画63件を修正しアップデートした。

(文責：日高 典子)

5) 安全対策委員会

目標：身体拘束最小化に向けたケアを把握する仕組みの構築

令和6年度診療報酬改定で入院基本料に要件化された「身体拘束を最小化する取組の強化」に向けて、「身体的拘束最小化指針に基づくマニュアル改訂」および「身体拘束カンファレンステンプレート改定」を行った。

身体拘束マニュアル改訂では、身体拘束を回避・解除するためのケアと多職種でのケア介入についての内容を追加した。また、名称を「身体拘束最小化マニュアル」へ変更し、身体的拘束最小化指針と共に綴ることになった。

身体拘束カンファレンステンプレート改訂では、身体拘束の三つの要件（切迫性・非代替性・一時性）の適正な判断、身体拘束最小化の基準を満たす記録を導く内容、多職種での介入を促進する内容とした。加えて、身体拘束の実施状況をデータ化できる仕組みとし、2025年3月より運用開始した。

今後は、身体拘束最小化に向けたカンファレンスの充実とケア実践につなげ、尊厳ある安全なケアを追求していきたい。

(文責：古川 佳子)

6) 感染リンクナース会

目標：解決策を考え実践した結果、床頭台、ナースカートが基準通りに運用できる

目標達成のために、講義や部署ラウンド、グループワークなどの内容で計7回開催した。昨年度作成した床頭台やナースカートの使用基準定着に向け、リンクナースが自部署で取り組んだ活動をグループワークを通し、意見交換や情

報を共有した。他部署の取り組みを知ることで、自部署における活動の参考となり、同じ悩みや問題点を共有する良い機会となった。床頭台やナースカートの運用は、昨年度より改善はできているが、一部改善の余地があると感じる。リンクナースから、周囲の人を巻き込むことや活動時間の確保が困難との意見があがった。来年度は、リンクナースの役割である看護師長やリンクドクター、ICTとの連携など、共に問題解決に努めることが課題である。

(文責：松岡 真紀)

7) 褥瘡対策リンクナース会

目標：褥瘡リンクナースの取り組みで各部署目標の5割が目標達成できる

今年度はリンクナースの役割や褥瘡の発生要因、予防法、褥瘡ケアの知識を深めるために隔月の会で、皮膚排泄ケア認定看護師による「褥瘡のいろは」理学療法士による「ポジショニング枕の有効活用法」花王株式会社による「おむつの選択とフィッティング」の講義・演習を行った。

自部署の課題を明らかにし年間計画立案、実践していく中で、これらの知識を元に取り組むことができた。

最終評価は16部署中10部署で目標達成し褥瘡発生数の減少という成果もあった。

今後もリンクナース会で知識を深め、情報共有とリンクナースがリーダーシップをとって活躍することで、褥瘡発生率低下を目指し取り組みを継続する。

(文責：河内 志津子)

8) 緩和ケアリンクナース会

目標：ジョンセンの4分割法を使用して倫理カンファレンスを行い、患者の倫理的問題を検討することができる

今年度は、各部署のリンクナースが主体となり、患者の倫理的問題に向き合いジョンセンの4分割法を使用して意思決定支援を行い、各部署3症例の倫理カンファレンスが実施できた。各リンクナース自身の倫理的行動が高まるよう評価し初回に比して最終評価は上昇した結果となった。

「苦痛のスクリーニング」については、CITAへICT化し苦痛を抱えている患者に対して早期介入が可能となった。しかし、リソースナース

スの対応件数増加や緩和ケアチームへ看護師による介入依頼は、緩やかな上昇であった。今後は、リンクナースの積極的なCITA活用とスムーズな介入に繋げるシステム作りの構築を検討していく必要がある。

(文責：井上 真弓)

9) 認知症ケアリンクナース会

目標：認知症ケアリンクナースが、基本的な認知症の症状を理解し、部署の看護実践に繋げることができる

評価基準：認知症ケア加算取得患者のカレンダー設置率が向上する

知識・技術を得るために、認知症ケア加算1について、ユマニチュードでのロールプレイ、せん妄患者への関わり方、精神薬の作用・副作用などの項目で研修を行った。今年度はリンクナースメンバーからリーダーを選出し、現場の意見を取り上げメンバー主体で事例検討やグループワークを実施した。

目標に関しては、認知症ケアの基本であるリアリティオリエンテーションを意識できるよう、各部署でカレンダーおよび時計の設置率の向上に向けた取り組みを行った。ICUのように元々設置されている部署もあるが、全ての部署で設置率の向上がみられた。同じ目標で全部署が取り組んだことにより、せん妄予防パンフレット活用の有効性や患者個々に応じたリアリティオリエンテーションに早期に取り組む効果を得た。

(文責：野中 貴子)

10) 専門・認定看護師会

令和6年度の専門・認定看護師会では、「活動の見える化」を目標に、1. 職務記述書のひな形作成、2. 院内職員を対象とした広報活動の実施を行った。職務記述書に関しては、専門・認定看護師を積極的に活用してもらうためにどのような書式にすべきかを考え、ひな形を作成した。今後は、職務記述書を完成し、看護師が積極的に専門・認定看護師を活用し、質の高い看護提供に向け取り組みたい。広報活動では、好生館だよりへの投稿、専門・認定看護師の紹介看護実践報告会での活動報告を行った。

(文責：下村 聡美)

11) 特定行為研修修了者会

今年度は「特定行為に関する知識・技術・態度の再確認を行いスキルアップにつなげる。また、活動の周知と看護職員への教育支援を行う」を目標に取り組んだ。

①フォローアップ研修

初めて院内開催したフォローアップ研修では、吉富医師を講師にARDSガイドラインについて知識を深める為に、特定行為研修修了者13名、特定行為研修生3名、その他6名の22名が集まった。

②活動の見える化

活動の見える化では、館内向けに特定行為NEWS LETTERを11月と2月の2回発行し、各部署への配布ならびにラインワークスに掲示し約560名が既読した。

更に12月開催した実践報告会では、症例報告による特定行為の振り返りや術後疼痛管理の実際等5演題を発表し、57名の参加者と共有した。

③看護職員研修支援

看護職員研修支援では、呼吸療法ベーシックコース88名、アドバンスコース19名が参加し、講師ならびに研修支援に携わった。今後、特定行為の活動実績をアウトカム評価で示していくことが課題である。

(文責：池田 恵子)

12) 実習指導担当者会

目標：実習指導パスの活用

前年度に実習指導パスの見直しが行われ、活用できるよう改訂された。しかし、実際に実習指導パスを運用している部署は17部署中5部署であった。そこで、スタッフ全員が実習の目的に応じた実習指導をできるように、実習指導パスの運用方法について定めた。まず、実習指導パスの構成要素について申し合わせ、各部署の担当者はそれぞれの部署での困り事や工夫点について積極的に意見を出し合った。部署オリジナルのツールを実習指導パスに一本化することで実習指導パスが必須のツールとなり全部署が活用できるようになった。また、実習指導パスは実習前日までに担当者が作成すること、担当患者割当表とともに格納することを定め、毎日スタッフ全員が確認できるようにした。ICUにおいては、部署から実習指導パスを引き継ぐ

ことで、継続した指導に繋がった。

(文責：寺田 恭巳子)

13) 情報システム担当者会

目標：クリニカルパスを通してDPCとの関連の意識を高める

DPC期間に対する意識を高めるために、クリニカルパスとDPCの関係性について学習し、クリニカルパスを改訂する目的を共有した。

クリニカルパスを修正する際の注意点や方法のレクチャーを受け、その知識をもとに令和6年度診療報酬改訂でDPC期間に変更があり使用頻度があるものを中心に、各診療科のクリニカルパス改訂に取り組んだ。加えてクリニカルパス適応率、DPCジャスト率のデータをフィードバックし、クリニカルパス運用状況に関する意識付けを行った。今年度、クリニカルパス修正に関するレクチャーを行い、悩みや工夫点を共有できたことは、今後、各部署でのクリニカルパス改訂の一助となることを期待したい。

(文責：日高 典子)

14) 入退院支援担当者会

目標：入退院担当者として適切な退院調整が実施できる～DPCジャスト率向上と在宅へのスムーズな移行をめざして～

今年度は、Ⅱ期間最終日を0日として-2～+2の5日間のなかで0日に退院した患者の割合をDPCジャスト率とし、医師・MSW・看護師と連携してDPCジャスト率向上を図った。また、自宅退院患者の生活を考え退院時共同指導や介護支援等連携指導を取り組みのための手順やカンファレンス内容などのマニュアルの改訂を行った。

(文責：藤原 友紀)

15) 患者・職員サービス担当者会

目標：接遇の5原則 言葉遣いと態度でコミュニケーション力を高めよう！

接遇の他者評価を行い、「良かった所」「改善が必要な所」のフィードバックを行った。職員間や、患者とのコミュニケーションを通して素敵と感じた相手に電子版サンクスカードを活用し、感謝の気持ちを伝えた。サンクスカードの利用率上昇へと繋がった。接遇に関するロールプレイでは、言葉遣いと態度に関する患者・家族からの意見を事例とし、対応についてディス

カッションした。

またボウリング大会が開催され、事務局と共に準備から関わった。リフレッシュや他部門との交流する良い機会となった。

(文責：岩永 祥子)

16) 災害対策担当者会

目標：自部署の災害対応の課題抽出と部署で実践可能な災害対策簡易シミュレーションが実施出来る

災害対策の知識を深めることを目的に「災害の基本」「災害と薬剤師の役割」「災害と感染」「災害と医療情報」「災害と心のケア」について専門スタッフより講義を受けた。これらの知見を基にした「自部署でのシミュレーションと課題の抽出」に取り組み、部署の特殊性に応じた検討が出来た。内訳は、「構造・配置」に関するものが4件、「初動・避難」に関するものが13件であった。今後は、初動対応のみならず、災害の各フェーズにおける対応検討と事業継続計画（BCP）の実効性を担保していくことが求められる。

(文責：有馬 浩史)

3. その他

1) 院外研修

令和6年度看護職員研修計画 院外研修26項目に対し、63の研修及び学会等に169名受講した。

専門領域の災害医療関連ではDMAT技能維持等に6名、昨年度から開催されている佐賀県災害支援ナース養成研修に2名が参加し、継続した育成となった。診療報酬に係る研修では、認知症看護や看護補助者の活用等に副看護師長を中心した参加を行い、看護の質向上に寄与した。

看護管理者教育課程には、ファーストレベル10名、セカンドレベル2名、サードレベル2名が受講し、看護管理者育成に困難を示す時代の流れと逆行し、当館では多くの職員が研鑽を積んだ。専門・認定看護師では、緩和ケア1名、福岡県教育養成研修に1名と資格認定取得に邁進した。

今後も好生館のキャリア開発の方針に基づき、キャリア支援及び教育体制を整備し人材を育成する。

(文責：池田 恵子)

2) 臨地実習受け入れに関すること

令和6年度臨地実習は、看護学6校、助産学2

校、実習生合計376名の実習生を受け入れた。看護学では、体調の問題で実習が出来なかった学生に対し、補修実習を2件、助産学では分娩件数を満たすために実習期間延長を学校側と調整をした。実習中のインシデント報告として、看護師への報告の遅れなど事象レベル0～1の報告はあったが、安全に配慮した実習となった。

看護学生の臨地実習以外に認定看護師教育課程の臨地実習受け入れを行った。これまで久留米大学緩和ケア分野の実習は受け入れていたが、今年度は新たに緩和ケア分野の特定行為実践実習1名と、がん放射線療法看護分野の臨地実習2名を受け入れた。学校が主催する事例発表会では当館での実習の学びを通して、患者や家族に寄り添う看護について報告が行われていた。

今後も当館の役割として、実習を通して地域貢献ならびに人材育成に尽力する。

(文責：池田 恵子)

看護部教育

- 目的：看護部理念に基づき時代の変化に対応し、専門職として自律した看護職を育成する
- 目標：1. 根拠に基づいた看護実践ができる 看護実践能力 理論と実践の統合 最新の知識と技術
2. 医療チームの一員として組織的役割を遂行できるように、問題解決能力、判断力を身につける
3. 看護専門職として成長していくため、主体的に継続看護ができる

令和6年度 看護職員研修計画

令和6年度テーマ：経験を振り返り、自ら学ぶ力を高めよう！キーワード「経験学習支援」の基盤づくり

実践能力 とキャリア 開発に 必要な力	No	研修項目	レベル	主な内容	実践能力と キャリア開発 に必要な力	日 時	対象	ナース ナビ 申込期間	講 師	担当	場所
看護の核として必要な力	16	基礎看護技術I 看護技術(1)	I	・日常生活に必要な援助「療養環境の整備」 「食事」「移動」「口腔ケア」 ・診療・処置に必要な看護技術「静脈注射」 「血糖測定」など	ニーズ ケア リスク	4月～6月 毎週火曜日 研修要項参照 他7月、 11月、2月	新人看護職	不要	看護師長 副看護師長 (別紙)	教育 担当 副看護 師長	研修室1A1B 多目的 ホール
	17	スキルアップ 研修①② フォローアップ研修	I	・静脈血採血、静脈注射の技術トレーニングなど/吸引・膀胱留置カテーテル ・基礎看護技術の知識の再確認	ニーズ ケア リスク						
	18	看護過程 1-(1)	I	・患者を正しく看よう (フィジカルイグザミネーションとアセスメント)	ニーズ ケア リスク	4/19(金) 10:00～13:00	新人看護職	新人看護職は不要	救急看護認定看護師 北川誠也		研修室1A1B
	19	看護過程 1-(2)	I	・データ収集の段階 クリティカルシンキング	ニーズ ケア リスク	5/10(金) 10:00～13:00	新人看護職	新人看護職は不要	看護師長 河内志津子		多目的 ホール
	20	看護過程 1-(3)	I	・模擬事例から看護を考える	ニーズ ケア リスク	7/9(火) 10:00～13:00	新人看護職	新人看護職は不要	看護師長 日高典子		
	21	看護過程 2-(1)	I	・OJTにおけるフィジカルイグザミネーションとアセスメント	ニーズ ケア リスク	6/21(金)～7/12(金) 勤務時間内	新人看護職	新人看護職は不要	副看護師長 看護師長		各部署
	22	看護過程 2-(2)	I	・受持ち患者の看護展開をまとめ発表、今後の課題と取り組みを宣言できる ・患者の症例を共有できる	ニーズ ケア リスク	10/25(金) 9:00～17:00	新人看護職	新人看護職は不要			研修室1A1B
	23	看護過程 3-(1)	II	・臨床実践に主に活用される中範囲理論を知る(講義・グループワーク) ・看護理論の本質を読み取り、受持ち患者の看護実践と看護理論を照らし合わせる	ニーズ ケア 自己研鑽	10/31(木) 9:00～16:00	新人看護職	新人看護職は不要	佐賀大学 古賀明美 教授		多目的 ホール
	24	看護過程 3-(2)	II	・受持ち患者の看護実践と看護理論を照らし合わせグループ毎で発表	ニーズ ケア 自己研鑽	2025/1/21(火) 9:00～12:00	新人看護職	新人看護職は不要			
	25	看護過程 4	II	・看護理論を用いた受持ち患者の事例展開をまとめ発表	ニーズ ケア 自己研鑽	9/27(金) 9:00～17:00	新人看護職	新人看護職は不要			
	26	認知症 ケア	I	・認知症とせん妄の違いわかりますか？ ・患者の状態を理解して患者に対応しよう！	ニーズ ケア 自己研鑽	10/1(火) 10:00～13:00	新人看護職	新人看護職は不要	認知症看護 認定看護師 林田佳奈	教育担当 副看護 師長	研修室1A1B
	27	退院支援	III	・訪問看護ステーション研修	ニーズ ケア 自己研鑽	9/2(月) ～20(金) 8:30～17:15	新人看護職	新人看護職は不要	佐賀県看護協会 訪問看護 ステーション	教育運営 委員会	佐賀県看護協会 訪問看護 ステーション
	28	看護倫理 1	I	・日常的な倫理的問題 ・倫理的側面からみる看護師の責務と役割	ニーズ ケア 自己研鑽	9/3(火) 10:00～12:00	新人看護職	新人看護職は不要	看護師長 藤原友紀	教育担当 副看護 師長	研修室1A1B
	29	看護倫理 2	II	・臨床の場面での出来事 ・基盤となる考え方4原則について理解できる	ニーズ ケア 自己研鑽	9/10(火) 10:00～12:00	新人看護職	新人看護職は不要	看護師長 岩永祥子	教育運営 委員会	
	30	看護倫理 3	III	・倫理的問題を解決するために必要な基礎知識 ・基盤となる4原則の活用 倫理カンファレンス 事例検討	ニーズ ケア 自己研鑽	9/17(火) 10:00～12:00	新人看護職	新人看護職は不要	看護師長 花房喜代治		
臨床実践	31	静脈注射 研修	I	・静脈注射に関する知識の再確認	ニーズ ケア リスク	10/1(火)～ 12/13(金) 勤務時間	新人看護職以外 静脈注射に対応する 看護職で2023 年度未受講者		eラーニング 講師	教育運営 委員会	
	32	がん薬物 療法看護	I以上	・がん薬物療法の薬剤の取扱い方(暴露予防と方法)抗がん薬の正確で安全、安楽な与薬と管理 代表的な副作用と対処法及び予防について	ニーズ ケア リスク	10/8(火) 10:00～12:00	新人看護職以外 がん化学療法看護 認定看護師 岸副登記子	4/1～ 6/30	がん化学療法看護 認定看護師 岸副登記子	化学療法 委員会	研修室1A1B2
	33	輸血療法 看護	I以上	・血液製剤の管理、輸血の実際に必要な基礎知識 ・輸血の副作用と対処法について 安全、安楽な輸血と管理	ニーズ ケア リスク	10/15(火) 10:00～12:00	新人看護職以外 輸血療法看護 認定看護師 倉谷実希	4/1～ 6/30	看護師長 倉谷実希	輸血血液 製剤管理 委員会	
	34	放射線 看護	I以上	・造影剤の安全、安楽な与薬と管理 ・副作用と対処法及び予防について	ニーズ ケア リスク	10/22(火) 10:00～12:00	新人看護職以外 放射線看護 認定看護師 白谷みのり	4/1～ 6/30	がん放射線療法 看護認定看護師 白谷みのり		
	35	口腔ケア フォロー アップ研修	II以上	・「口腔ケアが患者を救う」自己の口腔ケア・食事 介助の実践を振り返り、知識・技術を再確認する ・看護師が行う嚥下機能評価 摂食・嚥下障害患 者の口腔ケア・食事介助	ニーズ ケア リスク	6/25(火) 10:00～13:00	新人看護職以外 口腔ケア看護 認定看護師 北原真由子	4/1～ 5/10	摂食・嚥下障害 看護認定看護師 北原真由子	教育運営 委員会	
	36	口腔ケア アドバンス	III以上	・摂食・嚥下に関する知識の再確認 ・摂食・嚥下障害看護認定看護師の院内活動 に随行し、実践	ニーズ ケア リスク	7月～12月 研修要項参照	新人看護職以外 口腔ケア看護 認定看護師 北原真由子	4/1～ 5/31	摂食・嚥下障害 看護認定看護師 北原真由子		
	37	臨床実践 向上研修(呼吸・ 循環管理)	全	・最新の知見を活かす看護ケアシリーズ 「やってみよう!呼吸療法Ver.2」	ニーズ ケア リスク	基礎編 7/29-30-31 応用編11/7-8	新人看護職以外 臨床実践看護 認定看護師 諸隈正子	4/1～ 5/31	特定行為研修 修了者 他		
	38	臨床実践 向上研修(看護 ケア)	全	・最新の知見を活かす看護ケアシリーズ 「穏やかな最期を支援する看取りケア」	ニーズ ケア リスク	6/14(金) 10:00～12:00	新人看護職以外 臨床実践看護 認定看護師 諸隈正子	4/1～ 5/10	精神科認定看護師 諸隈正子		

*対象者のレベルは暫定も含む

実践能力とキャリア開発に必要な力	No	研修項目	チャレンジレベル	主な内容	実践能力とキャリア開発に必要な力	日時	対象	ナースナビ申込期間	講師	担当	場所
看護の核として必要な力	38	*重症度、医療・看護必要度研修	全	・重症度、医療・看護必要度研修	ニーズ ケア 経営	一般8/1~10/31 新人2025/1/6~1/31	全職員(必須)		eラーニング講師	教育運営委員会	
	39	特定行為共通科目研修	Ⅳ以上	・特定行為研修「共通科目」の学習を行い、臨床推論力・病態判断向上のために知識を習得する	協働 自己研鑽	2024/6月~2025/3月	希望者		全日病S-QUE e-learning	看護部	
	40	特定行為研修		・看護師の特定行為研修	ニーズ ケア 自己研鑽		チャレンジレベルⅢ以上			病院	シミュレーター
	41	特定行為研修修了者研修		・特定行為研修修了者トレーニング	ニーズ ケア 自己研鑽		特定行為研修受講者			看護部	
	42	特定行為研修修了者実践報告会		・特定行為研修修了者による看護実践報告会	協働 自己研鑽	12/4(水) 17:30~19:00	全職員		特定行為研修修了者(発表者)	特定行為研修修了者会	多目的ホール
組織的役割遂行能力	43	ストレスマネジメント1	一	・ストレスとは何かを知り、ストレスとの付き合い方を考える ・睡眠セミナー		6/11(火) 10:00~12:00	新人看護職	不要	臨床心理士 松尾真樹 外部講師	教育担当 副看護師長	多目的ホール 吉野ヶ里公園
	44	ストレスマネジメント2	一	・野外活動「佐賀に触れてリフレッシュ」		9/13(金) 8:30~17:15	新人看護職	不要			
	45	プリセプター(基礎編)	Ⅱ	・好生館看護部の新人看護職員教育体制 経験学習支援「認知的徒弟制による6ステップ」 ・新人看護職員教育について プリセプターの役割 対人関係に必要なコミュニケーションスキル		2025/3/7(金) 10:00~12:00	チャレンジレベルⅡで令和7年度プリセプター予定者	4/1~12/20	看護師長 新人看護師長	教育運営委員会	研修室1A1B
	46	プリセプター(応用編)	Ⅱ	・人の考え方の特徴、今どきの新人看護職の特徴を学ぶ ・プリセプターとしての自己を振り返り、新人看護職との関わり方を考える		5/17(金) 10:00~12:00	令和6年度プリセプター	4/1~4/20	看護師長 新人看護師長		
	47	実地指導者コーチング	Ⅱ以上	・コーチングの基本スキル「聴く」「質問する」「承認する」		11/26(火) 13:00~17:00	チャレンジレベルⅡ以上実地指導者	4/1~4/30	AEメディカル 野津浩嗣氏		多目的ホール
	48	実地指導者特別セミナー	全	・好生館看護部の新人看護職員教育体制 経験学習支援「認知的徒弟制による6ステップ」		6/21(金) 17:30~18:30	全職員		教育担当 副看護部長		
	49	実地指導者(基礎編)	Ⅲ	・好生館看護部の新人看護職員教育体制 経験学習支援「認知的徒弟制による6ステップ」 ・新人看護職員研修の目的と実際 実地指導者の役割と役割遂行に必要な基礎知識		5/24(金) 10:00~12:00	チャレンジレベルⅢ以上	4/1~4/20	看護師長 寺田恭子	研修室1A1B	
	50	実地指導者(応用編)	Ⅲ	・経験学習支援「認知的徒弟制による6ステップ」 ・「認知的徒弟制による6ステップ」を応用した部署の新人看護職員教育計画立案と実践		6/7(金) 10:00~13:00	実地指導者(基礎編)受講者	4/1~4/30	看護師長 古川佳子		
	51	臨地実習指導者	Ⅲ	・後輩を支援しよう！臨地実習指導者向け研修		7/5(金) 10:00~12:00	チャレンジレベルⅢ以上実習指導担当者以外	4/1~4/30	看護師長 江頭望		実習指導担当者会
	52	看護補助者活用の所定研修	全	・看護補助者の役割を知り、看護補助者の活用と育成に活かす		2024/12/2~2025/1/31	新規採用者 復帰者 (未受講者)		eラーニング講師	教育運営委員会	
	53	管理者研修	Ⅲ以上	・実践で活かせる看護管理（詳細は別途案内）		5・7・9・11・2月 第2金曜日 15:00~16:00	看護師長 副看護師長		看護師長 副看護師長	看護部	
	54	専門・認定看護師実践報告会	Ⅳ	・専門・認定看護師による看護実践報告会	協働	2025/3/5(水) 17:30~19:00	全職員		専門・認定看護師(発表者)	専門・認定看護師会	
	55	リーダーシップ・マネジメント(基礎編)	Ⅲ	・リーダー、リーダーシップ、マネジメントとは ・リーダーシップを発揮するために必要な能力とは ・問題解決に必要な基礎知識	協働	8/2(金) 10:00~13:00	チャレンジレベルⅢ以上	4/1~5/31	西九州大学 川島睦子准教授	教育運営委員会	多目的ホール
	56	リーダーシップ・マネジメント(応用編)	Ⅳ	・問題解決のプロセスを学び、部署の問題を明確化し課題を設定する ・リーダーシップを発揮し部署の課題解決に取り組む	協働	9/24(火) 10:00~13:00	チャレンジレベルⅣ以上	4/1~5/31	看護師長 松岡真紀		
	57	リーダーシップ・マネジメント実践報告会	Ⅳ	・リーダーシップ・マネジメント研修（応用編）受講者による実践報告会	協働	2025/2/14(金) 14:00~16:30	リーダーシップ・マネジメント研修(応用編)受講者				
	58	ファーストレベル修了者実践報告会	Ⅳ	・「認定看護管理者教育課程ファーストレベル」の学びを現場で活かす ・取り組み内容をまとめることで、自己の実践を振り返り次の実践に繋げる	協働	9/19(木) 14:00~16:00	ファーストレベル研修修了者				看護部
	59	看護実践報告会	全	・部署での一年間の取り組みについて看護実践報告会	協働	2025/3/13(木) 17:30~19:00	全職員			教育運営委員会	
自己教育研究能力	60	看護研究①	Ⅱ以上	・看護研究とは（看護研究の意義と必要性、研究デザイン） ・研究テーマの見つけ方 研究計画書の作成方法 文献検索	自己研鑽 研究	6/28(金) 9:00~12:00	レベルⅡ認定者		佐賀大学 柴山薫 助教	教育運営委員会	研修室1A1B
	61	看護研究②	Ⅱ以上	・看護研究における倫理的配慮 ・統計とデータ分析	自己研鑽 研究	7/19(金) 9:00~12:00	レベルⅡ認定者看護研究①受講者		総合臨床研究所 研究員 貞嶋栄司		
	62	看護研究③	Ⅱ以上	・論理的思考と文章の書き方 ・効果的なプレゼンテーション技術とパワーポイントスライドの作り方	自己研鑽 研究	9/6(金) 9:00~12:00	レベルⅡ認定者看護研究①②受講者		佐賀大学 柴山薫 助教		

*看護補助者研修

看護補助業務1:6/17、看護補助業務2:7/8、看護補助業務3:9/9、看護補助業務4:5~8月、看護補助業務5:9~11月、看護補助業務6:12~2月

受講者 延べ1,729名

薬剤部

1 全体

産休・育休等でスタッフが手薄な中、皆で知恵を出し合い業務改善と意識改革を行い、前年度を上回る実績が残せた努力の一年だった。

2 スタッフ

2024年度は薬剤師33名・助手7名の定員だったが育休、時短勤務が多く実質27名の薬剤師で業務を行った。

3 教育・研修

臨床技能、知識の習得を目的に症例検討会や最新の薬剤のエビデンスを学ぶため薬剤部勉強会を月1回行った。更に認定、専門薬剤師取得のための自己研鑽も活発に行われ19の資格種別で延べ39名の資格取得者が活動している。更に、薬学生の実務実習受入施設やがん関連の研修施設の認定も取得し学生や薬剤師の教育にも取り組んでいる。

好生館における資格取得者数と認定された研修施設
2025年3月31日現在

資 格	人数
薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師	5名
日本病院薬剤師会指導薬剤師	1名
日本病院薬剤師会認定薬剤師	2名
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師	3名
日本医療薬学会がん専門薬剤師	3名
日本医療薬学会がん指導薬剤師	2名
日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師	2名
日本緩和医療薬学会緩和医療暫定指導薬剤師	1名
日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師	2名
日本糖尿病療養指導士認定機構日本糖尿病療養指導士	2名
日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士	6名
日本薬剤師研修センター漢方薬・生薬認定薬剤師	1名
日本臨床救急医学会救急認定薬剤師	1名
日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師	3名
日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師	1名
日本循環器学会心不全療養指導士	1名
日本災害医学会インストラクター	1名
日本臨床試験学会GCPパスポート	1名
日本臨床試験学会GCPエキスパート	1名
19の資格種別	39名

受入施設

薬学生長期実務実習受入施設
日病薬「がん薬物療法認定薬剤師」研修施設
日本医療薬学会「がん専門薬剤師」研修施設

また、地域連携事業の一環として、地域の保険薬局、病院薬剤師を対象に好生館薬剤部主催の佐賀好生館薬剤師セミナーを実施し71名の参加を得た。薬学部学生の長期実務実習は5名/年受け入れた。

4 業務に関すること

(抗がん剤・レジメン)

薬剤部では患者が安全に化学療法を実施できるようレジメンの作成管理を行いホームページで保険薬局と情報共有を行っている。2024年度は新たに37件のレジメン登録を行い、全632件を管理している。がん無菌調製件数は2024年度9,601件と順調に推移している。更に休日の抗がん剤無菌調製も薬剤部で全て実施している。2018年度から外来化学療法室にて薬剤師外来を開始し2024年度は2,283件実施し前年度より26%増加した。2020年度には連携充実加算を取得開始し2024年度は1,569件実施し前年度より23%増加した。更に2021年度から医師の業務軽減を見据えて薬剤師によるPBPMを11プロトコル運用し2024年度は231件を実施した。今後も外来患者が安心して治療を受けられるよう保険薬局薬剤師と情報共有を行っていく。

(入退院支援センターでの活動)

2024年度の面談件数は7,371件で前年度より3%増加し順調に推移している。手術等で休薬が必要な薬品を薬剤師が検知する割合は2024年度32.3%で前年度より4.6%増加し手術延期の減少に寄与している。今後も薬剤部の重点業務として取り組んでいく。

(採用薬品)

医薬品購入額は高額な抗がん剤等の使用増加により年々上昇傾向にあるが、積極的な価格交渉を進めると共にバイオシミラーを含む後発医薬品の採用を積極的に行っている。2024年度の採用品目数は1,124品目で後発品目数は407品目で品目ベース36.2%、金額ベース52.8%、数量ベース92.8%と医薬品供給

不安で変更を余儀なくされている中非常に高い率で推移している。更に1回投与金額が数百万円の医薬品の使用も増えており「患者都合による廃棄に係る患者負担の同意書」の運用を開始し、患者と情報共有を行いながら安全で効率的な医療を目指している。

(病棟業務、チーム医療)

2015年度より全病棟に専任の薬剤師を配置し、全病棟で入院患者に対する薬物療法の有効性・安全性の向上を目指して取り組んでいる。更に、同年7月からは病棟薬剤業務実施加算、2016年6月からは病棟業務実施加算2の算定を開始した。各診療科の回診・カンファレンスにも積極的に参加し、患者情報の収集や薬物療法の提案を行っている。2024年度の薬剤管理指導算定件数は15,845件で昨年度より4%増加している。更に患者の入院中の情報を保険薬局薬剤師と共有するために退院時指導を推進した。その結果2024年度は1,077件と年々増加している。

チーム医療においても糖尿病、緩和ケア、感染症、NST、外来化学療法、褥瘡、手術部、入退院支援センターのチームメンバーとして継続的な活動を行った。2017年度の抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の設置に伴い、病棟担当の薬剤師がASTの一員として、院内の抗菌薬適正使用に努めている。

更に医師から薬剤師へのタスク・シフトを目的に手術部門における医薬品の適正管理や麻薬等の無菌調製を行う「周術期薬剤管理加算」は、月平均164件、年間1,964件実施し前年度の2倍以上の実績を上げ麻酔科医の業務軽減に貢献した。

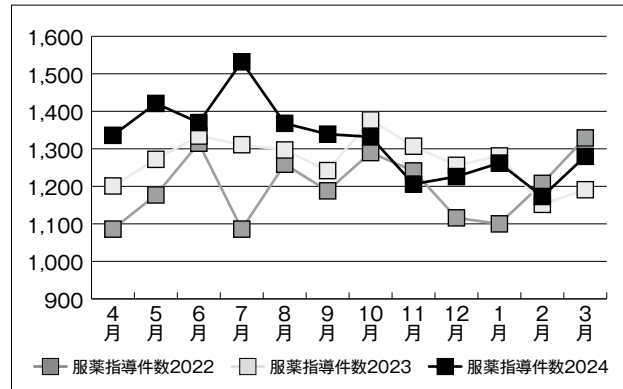
周術期における術前中止薬の管理にも取り組み、CITAとYahgee文書を活用し、術前中止薬の再開忘れ防止に取り組んだ。

(業績)

新型コロナ流行による制限も取れ、学会発表14題、講演が1題、論文投稿が2題と増加した。個々の研究だけでなく、地域の薬剤師や県内の新人薬剤師への講演等も積極的に実施した。また、日本病院薬剤師会雑誌や佐賀県病院薬剤師会会誌への論文投稿も行い、皆が切磋琢磨して業務に取り組んでいる。

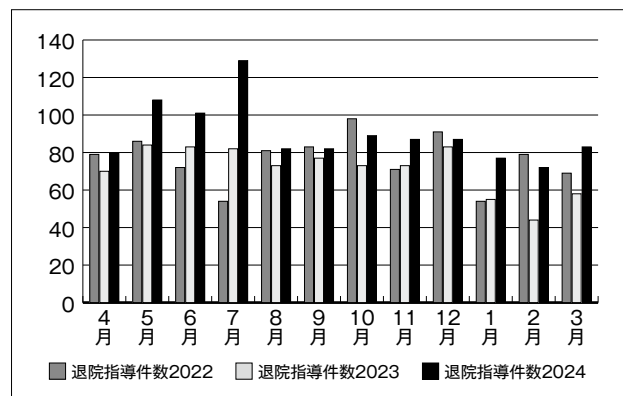
服薬指導件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2022	1,086	1,177	1,315	1,086	1,259	1,188	1,290	1,241	1,116	1,100	1,208	1,329	1,200
2023	1,201	1,272	1,334	1,311	1,297	1,242	1,377	1,307	1,256	1,281	1,152	1,191	1,268
2024	1,336	1,421	1,370	1,532	1,368	1,339	1,332	1,206	1,226	1,262	1,173	1,280	1,320



退院時指導件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2022	79	86	72	54	81	83	98	71	91	54	79	69	76
2023	70	84	83	82	73	77	73	73	83	55	44	58	71
2024	80	108	101	129	82	82	89	87	87	77	72	83	90



抗がん剤治療における指導

薬剤師外来(指導件数)													
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2022	155	156	158	149	149	126	127	143	119	132	122	171	142
2023	135	137	151	141	161	134	135	137	135	141	143	144	141
2024	183	201	191	193	190	189	200	175	188	198	186	189	190

薬剤師外来(ハ算定200点)													
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2022	56	24	13	24	22	16	10	26	15	15	14	12	21
2023	15	14	18	11	12	16	16	13	14	19	22	10	15
2024	13	22	18	14	11	19	18	6	15	14	22	11	15

薬剤師外来(連携充実加算150点)													
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2022	69	67	70	66	65	58	69	61	50	69	64	95	67
2023	72	74	87	96	101	92	92	98	97	104	115	113	95
2024	121	131	123	131	136	125	134	129	139	137	116	129	129

入退院支援センター関連 総実施件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2022	503	502	565	572	464	527	536	516	509	537	560	588	532
2023	557	543	630	579	601	580	604	612	602	605	606	649	597
2024	624	697	589	677	581	590	672	614	565	603	580	579	614

(文責：草葉 一友)

医療安全管理部

1 医療安全管理部の構成

1	部長・医療安全管理責任者	内藤 光三 (副館長)
2	副部長・医療安全管理者	武田 雄二 (呼吸器外科部長)
3	医薬品安全管理責任者	草葉 一友 (薬剤部長)
4	医療機器安全管理責任者	馬場 英明 (MEセンター技士長)
5	医療放射線安全管理責任者(代理)	濱田 洋 (放射線部技師長)
6	医療安全担当副看護部長	伊東 美知代 (副看護部長)
7	医療安全管理者、GRM(専従)	福井 直子 (看護師長)
8	医療安全管理者(専従)	梶原 早苗 (副看護部長)
9	医療安全担当事務(専従)	徳島 香奈 (総務課副主査)

2 2024年度の主な活動報告

(1) インシデント・アクシデント報告の集計・分析・活用

2024年度のインシデント・アクシデント報告総数は4,252件であった。例年と同様「薬剤に関する項目」が最も多く、次いで「検査に関する項目」「転倒・転落」「ドレーン・チューブに関する項目」が上位を占めていた(図1)。医師からのインシデント・アクシデント報告数は増加し、今年度は912件で全体の21.4%を占めた(図2)。全報告数の過去12年間の変化を見ると、2019年から増加傾向となり今年度は2012年の約3.3倍となった(図3)。インシデント・アクシデント報告からの改善として、今年度は注射用カリウム製剤の定数配置の見直し、医療事故、緊急事態発生時の対応マニュアル(転倒時のフローチャート、現場保全等)作成、植え込み型デバイス(ペースメーカー)の取り扱いに關しての改訂を行った。また、2023年度に引き続き一人双方向型ダブルチェック、手術室以外における侵襲的な治療・検査・処置前のタイムアウト実施の啓蒙等を行った。

図1 2024年度 インシデント・アクシデント報告内容別割合

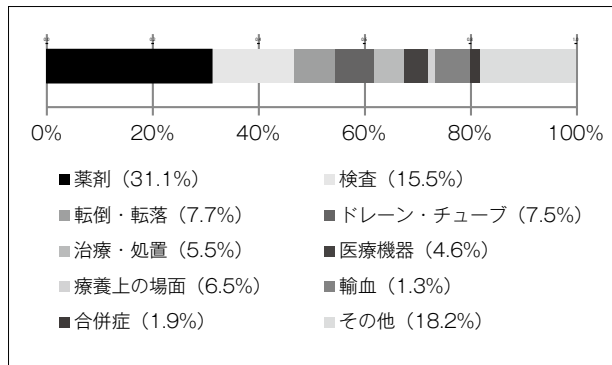


図2 2024年度 インシデント・アクシデント報告職種別割合

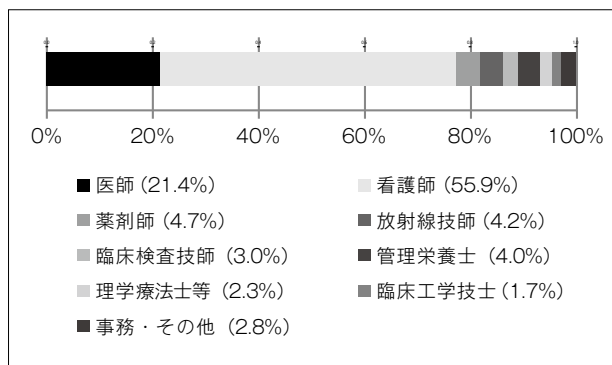
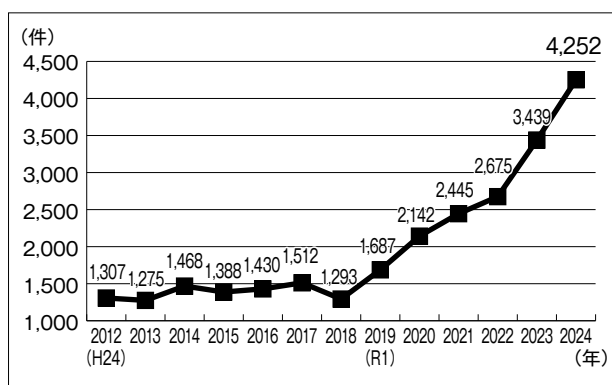


図3 インシデント・アクシデント報告数推移



(2) 医療安全管理部会議 (1回/週)

提出されたインシデント・アクシデント報告、合併症報告、死亡患者の報告、医療事故報告についての分析、予防策、改善策の提案・推進を協議する。

(3) 医療安全管理委員会 (1回/月)

館内の医療安全管理に関する重要事項等について審議し方針を決定する機関である。

下部組織として医療安全対策委員会、クオリティマネジメント委員会を設置している。

・医療安全対策委員会（1回／月）

医療事故の防止対策及び安全な医療の提供体制を確立するためにインシデント・アクシデント報告、医療事故報告の支援、集積、分析等を行う。

・クオリティマネジメント委員会（1回／月）

「医療行為に伴う合併症、有害事象、死亡など」を集積・分析する事により好生館における医療の質の向上を目指す。

各委員会は毎月開催し、医療安全管理委員会に報告し審議・決議を行う。

- (4) セーフティマネージャー連絡会議（4回／年）
セーフティマネージャー相互の連携及び医療安全管理部との連携を図る
- (5) 医療安全管理部の館内ラウンド（週1回）
- (6) 医療安全ニュース発行（月1回発行）
- (7) リスクマネジメントマニュアルの改訂
- (8) 日本医療機能評価機構の「医療安全情報」や他施設で発生した医療事故情報、その他医療安全に関する話題をイントラネットにて全職員へ提供している。
- (9) 日本医療機能評価機構の医療事故情報収集事業への報告（3ヶ月毎）
- (10) RRT（院内迅速対応チーム）の24時間体制の構築、医療安全管理部へのRRT専従看護師の配置
- (11) 放射線診断レポートおよび病理診断レポート
既読管理システムのモニタリング
- (12) 医療安全対策地域連携に関する評価の実施
加算1（相互評価）
日本赤十字社唐津赤十字病院
加算2 医療法人ひらまつ病院、医療法人静便会白石共立病院、医療法人同愛会
サンテ溝上病院
- (13) 医療安全推進週間（11月）
- (14) 医療安全文化調査（日本医療機能評価機構 病院評価機能事業）への参加
- (15) 医療の質可視化プロジェクト（日本医療機能評価機構 医療の質向上のための体制整備事業）への参加
- (16) 好生館サンクスカードの運用
- (17) 医療事故調査制度の報告対象事例の院内調査と報告書作成

3 教育

医療安全研修会 3回／年

第1回医療安全研修会（第203回病院マネジメント推進会） 6月6日

・『取扱いに注意が必要な医薬品について』

薬剤部長 草葉一友

・『医療機器の安全使用について』

臨床工学技士長 馬場英明

第2回医療安全研修会（第208回病院マネジメント推進会） 11月7日

・『放射線の安全利用について』

診療放射線技師 江口寛晃

第3回医療安全研修会（第210回病院マネジメント推進会） 1月9日

・『2024年の医療安全文化調査について』

副館長／医療安全管理部部长 内藤光三

・『酸素ボンベの取り扱いと点検／アウトレットの取り扱いと点検』

動画視聴

・『院内迅速対応チーム（RRT）活動報告

～ソボクなギモンにお答えします』

集中ケア認定看護師 梶原早苗

ICU／特定看護師 福岡敬典

（文責：内藤 光三）



感染制御部

感染制御チーム (ICT) 抗菌薬適正使用支援チーム (AST)

1 2024年度スタッフ

(1) 感染制御部：

医師 福岡麻美、感染管理認定看護師 三好恵美子・山口文美、専従看護師 江頭真李香、事務 永石浩子

(2) 感染制御チーム (ICT)

感染制御部：福岡麻美・三好恵美子・山口文美・江頭真李香・永石浩子、医師 (ICD)：三溝慎次・吉富有哉、薬剤師：田中康弘・武富光希・岩本夢実、臨床検査技師：佐野由佳理・香月万葉・田口舜・矢野智彦・泉朱里、事務：田中佳奈 (医事課)・村岡浩文 (施設課)・牛島卓也 (財務課)・永田知暉 (総務課) (計19名)



(3) 抗菌薬適正使用支援チーム (AST)

上記ICTメンバーに加え、薬剤師：佛坂章子・宮原強・東山彩夏・徳渕美幸・山田敦子・塩川裕美・糸永昇平・永田美里・徳永晃・井寺晃子・森永ひかり・宮原久美子・南里本・佐野雅彦・水田秀貴・八頭司正稔 (計35名)



2 活動実績

(1) 感染症診療支援

新規コンサルテーション・インターベンション
件数：1,213件、月平均101件

(2) 感染対策コンサルテーション：116件、月平均約10件

(3) 感染症教育 (感染制御部ローテーション)：初期研修医25名 (2年次24名、1年次1名、そのうち8名は館外から)

(4) 新興感染症 (一類感染症等) 受入れ体制整備

①一類感染症チームメンバー入れ替え・1名増員
(65名：医師19名、看護師35名、臨床工学技士3名、放射線技師2名、臨床検査技師3名、事務3名)

②一類感染症チームメンバーに対する年3回の個人防護具 (full PPE) および電動ファン付き呼吸用保護具 (PARP) 着脱訓練実施 (計32日、37回)

③厚労省研究班主催「一類感染症等集中治療アドバンスワークショップ研修会」に感染管理認定看護師2名 (三好恵美子、山口文美) が講師として参加 (6月2日、りんくう総合医療センター)

④令和6年度新興感染症等 (エボラ出血熱) を想定した訓練 (実施施設：当館、白石共立病院、佐賀県健康福祉部健康福祉政策課、杵藤保健福祉事務所、佐賀県衛生薬業センター)：2025年1月24日

⑤エムボックス患者対応訓練 (机上および実地訓練) (参加診療科・部署：皮膚科、看護部 (8階東病棟)、検査部、薬剤部、事務部、感染制御部)：10月25日

⑥佐賀県との連携

(ア) 佐賀県感染症対策連携協議会委員

(イ) 佐賀県新型インフルエンザ等対策専門家会議委員 (3回出席)

(ウ) 佐賀県東部地区感染症の審査に関する協議会委員長 (月2回出席)

(エ) 佐賀県麻しん風しん対策推進会議委員 (2025年1月16日開催)

(5) 新型コロナウイルス感染症対応

新型コロナウイルス感染症5類移行後も、当館は佐賀県との協定で第一種協定指定医療機関

(入院)に指定されており、引き続きコロナ病床を確保し、中等症Ⅱ以上の患者を中心に入院受入れを行うことになっている。

- ①新規入院患者数(2024.4.1～2025.3.31):219人
- ②感染職員への対応:233名。就業停止期間、復職後の注意事項について案内。
- ③入院中に感染した患者への対応:36名
- ④クラスター対応:館内におけるクラスター(5名以上)発生3件
- ⑤職員等へのワクチン接種:12月13日、18名
- ⑥佐賀県との連携:佐賀県新型コロナウイルス情報共有会議出席(7月31日)
- (6)感染対策向上加算1・指導強化加算取得と感染防止対策地域連携
 - ①感染対策向上加算1関連
 - (ア)連携施設～富士大和温泉病院、白石共立病院、もろどみ中央病院、サンテ溝上病院、早津江病院(6月1日～)
 - (イ)感染防止対策地域連携カンファレンス(Web開催・4回):5月29日、8月30日、11月29日、2025年2月28日
 - (ウ)感染防止対策に関する相互評価:2025年3月3日好生館→佐賀大学医学部附属病院、3月5日佐賀大学医学部附属病院→好生館訪問
 - (エ)令和6年度新興感染症等(エボラ出血熱)を想定した訓練(2025年1月24日、前述)
 - ②指導強化加算に基づく施設訪問(5施設):7月9日白石共立病院、9月6日サンテ溝上病院、10月8日富士大和温泉病院、11月1日早津江病院、12月10日もろどみ中央病院
- (7)ICTラウンド:週1回、年間51回
- (8)手指衛生向上のための取り組み
 - ①手指衛生サーベイランス:2024年度1患者1日あたり手指消毒薬使用量平均24.8mL、遵守率年間平均59%(前年69%)
 - ②部署別クリーンハンドキャンペーン:(実施期間)2024年6月～12月、(参加部署)23部署、(実施内容)感染制御部による勉強会開催9部署、部署による手指衛生直接観察実施14部署
- (9)抗菌薬適正使用推進

2024年6月よりカルバペネム系抗菌薬長期使用症例に対する1～2週時点での再度使用許可制導入。2024年度カルバペネム系抗菌薬使用量(AUD)前年度より19%削減。

(10) サーベイランス

- ①薬剤耐性菌:MRSA、ESBL産生菌、AmpC型βラクタマーゼ産生菌、薬剤耐性緑膿菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)、キノロン耐性大腸菌、*Clostridioides difficile*(全部署)→月に3件を超える部署にデータの還元と注意喚起

②医療関連感染サーベイランス

- (ア)集中治療室(ICU)部門:人工呼吸器関連肺炎・カテーテル関連血流感染症・尿路感染症(2021年度よりICUに業務移管)
- (イ)中心ライン関連血流感染:4階西病棟
- (ウ)手術部位感染:消化器・肝胆膵外科、脳神経外科→結果のフィードバック

(11) マニュアルの整備・改訂

標準予防策、血管内留置カテーテル関連血流感染防止対策、感染性廃棄物の管理、職員が感染症に罹患した場合の対応、手足口病、薬剤耐性菌感染予防策、針刺し・切創・皮膚粘膜暴露時の対応、エムボックス

(12) 結核患者対応

患者発生数9名(外来4名、入院5名)、排菌のある肺結核患者なし。接触者健診(当館受診後他院で感染性肺結核と診断された患者):対象者～職員15名(陰性14名、判定保留1名→別検査で陰性)

(13) 職員の健康管理・職業感染防止対策

- ①各種ワクチン接種(B型肝炎、子宮頸がん、インフルエンザ、新型コロナウイルス)計18回
- ②針刺し・切創(32件)、皮膚・粘膜暴露(5件)への対応
- ③T-SPOT.TB検査陽性職員対応

(14) 感染症に関する情報発信

- ①ICTニュース発刊:毎月1回、年12回
- ②手指衛生遵守率、薬剤耐性菌検出状況、抗菌薬供給制限、感染症流行状況(新型コロナ、インフルエンザ)等について適宜アナウンス(WORKS等)

3 教育・研究・その他の活動

(1) 院内研修会・講演会・勉強会・講義

- ①院内感染対策研修会(2回):
 - ・第1回2024年6月6日:
 - (ア)当館における薬剤耐性菌検出状況～AMRアクションプラン成果指標の達成状況～(佐野由佳理)
 - (イ)抗菌薬適正使用～AMR対策アクションプ

ラン目標達成に向けて～（武富光希）

（ウ）手指衛生実施率70%を目指す！（山口文美）

・第2回2024年11月7日：

（フ）血管内留置カテーテル関連血流感染症を減らそう！（山口文美）

（イ）当館における外来経口抗菌薬使用状況と今後の取り組み（岩本夢実）

②新規採用職員オリエンテーション：2024年4月1日・2日・5日、その他中途採用者に対して11回

③部署別感染対策研修会：計9回実施（4月9日救命救急士、7月24日清掃担当者、9月10日4階西病棟、11月11～15日栄養管理部、11月25日セーフティーマネージャー連絡会議）

④部署別サーベイランス結果報告会：消化器外科SSIサーベイランス報告4回（4月25日、7月25日、10月31日、2025年1月30日）、脳神経外科SSIサーベイランス報告1回（11月27日）、4階西病棟中心ライン関連血流感染サーベイランス報告1回（9月10日）

⑤看護部感染リンクナース研修会：7回

⑥院内研修医勉強会

（ア）感染症診療に必要な微生物の基礎知識・血液培養陽性結果の解釈：9月26日

（イ）研修医に必要な抗菌薬の基礎知識：10月10日

⑦好生館看護学院講義：感染管理、4コマ（5月13日、5月20日、5月27日、6月17日）

（2）その他の活動

・「令和6年度佐賀県感染管理エキスパート職員研修」の企画会議（三好恵美子）4月22日（佐賀県庁）

・令和6年度佐賀県感染管理エキスパート職員研修（三好恵美子）、11月13～15日

携を強化する。さらに今年度より厚労省が実施する「感染症臨床研究ネットワーク事業」に参加し、他の関係医療機関との連携を深め、有事の際には迅速に臨床研究に参加できるよう研修、訓練を受けているところである。

（2）地域連携における薬剤耐性対策

新型コロナウイルス感染症パンデミック時の抗菌薬過剰投与により、世界的な薬剤耐性菌の増加が懸念されている。当館においてもグラム陰性薬剤耐性菌の増加傾向が顕著となっている。MRSAやESBL産生菌などの薬剤耐性菌は、院内だけでなく広く市中に蔓延しており、薬剤耐性菌対策は地域全体で取り組む必要がある。特に抗菌薬の不適切な使用は耐性菌を増やす最大のリスクであり、地域を巻き込んだ抗菌薬適正使用推進が求められる。感染防止対策地域連携医療機関のネットワークを足がかりとして、今後好生館が出来る役割を模索中である。

（文責：福岡 麻美）

4 今後の課題と展望

（1）新興感染症への備え

猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は5類感染症に引き下げられたが、次なるパンデミックはいつきてもおかしくない。第一種感染症指定医療機関である当館は、平時より次なる感染症の危機に備えておく必要がある。2024年2月に発足した一類感染症医療チームは、年に3回の个人防护具着脱、个人防护具着用下の侵襲的処置等の訓練を積み重ね、スキルアップを図っている。また年に1回の佐賀県と合同の新興感染症等を想定した訓練を継続し、行政や地域の医療機関との連



医療情報部

1 はじめに

2020年7月に運用開始した現行の病院情報システムは、2024年度も特段大きな障害もなく、安定的に稼働した。

そうした中で、医療情報部は、「充実した安心安全の医療を、ICTを通じて支える」という基本理念の下、情報システムの企画・運用、がん登録といった「本務」に加え、地域医療連携や医療安全の推進支援、診療データ・経営データ分析など、病院運営に資する役割を積極的に果たしてきた。

2023年12月に新設されたDX推進室（医療情報係兼務）にて策定したDX推進計画に基づき、医療DXとセキュリティ強化の両立を推進していく。

2 スタッフ

医療情報部は、三好統括診療部長の統括の下、富永医療情報部長（消化器内科部長及びDX推進室長兼務）、医療情報係4名（DX推進室兼務）、がん登録係4名で運営を行った。

3 業務実績

【情報システム関係】

1 病院情報システムの運用・保守

下表の病院情報システムの安定稼働を維持するため、日常的にシステム監視、性能最適化、定期的なバックアップやアクセス権限管理、および予防保守としての定期メンテナンスを実施した。これらの取り組みにより、システムトラブルの未然防止と安定的なサービス提供に貢献した。また、現場からの多岐にわたる要望に対し、文書作成、マスタメンテナンス、ヘルプデスク業務等の運用支援を実施し、医療現場の円滑な業務遂行をサポートした（2024年度における要望事項依頼書の処理件数：963件）。

なお、上記の実施に当たっては、西鉄情報システム株式会社に業務委託（病院情報システム運用支援業務委託）を行った。

また、システム障害時対応においては、現場からのエスカレーションや監視結果をもとにトラブルシューティングを実施し、ベンダーとの折衝・調整から迅速な復旧、恒久対策に至るまで一貫した対応を行うことで、システムの安定稼働を維持した。具体的な病院情報システムの安定稼働のための施策として、以下を実施した。

- ・病院情報システムサーバー等の再起動（2024年11月16日実施）
- ・Wi-Fi APの再起動（2024年11月、2025年2月実施）
- ・WSUSの導入（Windows Updateの一元管理、ネットワーク負荷分散）
- ・VDI基盤の増設（システムの安定稼働および性能最適化）

診療部門関係

電子カルテシステム
歯科電子カルテシステム
重症病棟システム
生体情報管理システム
麻酔記録管理システム
医療機器連携システム
血糖インスリン管理システム
眼科診療支援システム
分娩集中監視システム
診療文書作成/管理システム
統合診療支援プラットフォームシステム
手術映像システム
電子カルテシステム全文検索機能
診療DWHシステム
クイックリファレンスツール
電子ジャーナル・文献閲覧システム
AI問診システム
救急日誌システム
ICU日誌システム
SCU日誌システム
患者動画説明サービス

検体検査部門関係

臨床検査システム
血液ガス管理システム
細菌検査システム
感染症コントロールシステム
病理検査システム
輸血・血漿分画製剤管理システム
採血管準備システム

生体検査部門関係

医用画像管理システム
モニタ品質管理システム
DICOM画像検像システム
放射線情報管理システム
放射線読影レポートシステム
3D画像配信システム
3D医用画像ワークステーションシステム
被ばく線量管理システム
整形外科計測ソフトウェア
生理検査情報管理システム
循環器動画像ネットワークシステム
内視鏡情報管理システム

診療支援部門関係
手術部門業務支援システム 放射線治療情報管理システム 透析管理システム リハビリテーションシステム 栄養管理システム ME機器管理システム 健診システム 褥瘡管理システム 緩和ケア管理システム インシデント・アクシデントレポートシステム 器材管理システム ペースメーカー遠隔モニタリングシステム
薬剤部門関係
調剤支援システム 注射薬払出システム 薬剤管理指導業務支援システム 医薬品情報検索システム 定数配置薬請求管理アプリケーション
看護部門関係
看護情報携帯端末システム 看護管理日誌システム 看護勤務管理システム 看護キャリア開発支援システム ナースコールシステム
医事部門関係
再来受付システム 保険証認証システム 院内表示システム 診察等順番案内アプリ 自動精算システム 診療費後払いシステム DPCコーディングシステム 医事会計システム レセプトチェックシステム 施設基準管理システム 診療情報管理システム がん登録支援システム オンライン資格確認
地域医療連携部門関係
病診連携システム インターネット予約システム 地域医療連携ネットワークシステム 地域連携パスシステム 医用画像CD/DVDインポートシステム 医用画像CD/DVDパブリッシュシステム フィルムデジタルシステム
事務部門関係
DPCベンチマークシステム 病院経営情報分析システム 経営管理支援システム 人事評価システム 人事給与システム 勤怠管理システム 人事申請承認システム 出退勤管理システム 財務会計システム 安否情報システム 文書管理システム/検査部WFシステム デジタルサイネージシステム 電子メールシステム アセット・パフォーマンス・マネジメントシステム

その他部門関係
二要素認証システム 院内ポータルシステム/利用者管理システム グループウェアシステム ワークフローシステム 会議室等予約システム eラーニングシステム データビジュアライゼーションBIシステム BIレポートプラットフォームシステム FileMaker基盤 術場カメラシステム ERカメラシステム RPAシステム

2 医療 DX と業務効率化

DX推進室と各部門から選出された構成員を中心に、以下の医療DXに関する施策を実施した。

国の施策に資する取り組みとしては、以下を実施した。

- ・医療扶助のオンライン資格確認の導入（2025年3月28日開始）
- ・救急時医療閲覧機能の導入（2025年3月28日開始）
- ・マイナ保険証利用促進のためマイナ再来受付機の増設の準備（2025年度開始予定）
- ・電子処方箋の導入の準備（2025年度開始予定）

当館独自の取り組みとしては、以下を実施した。

- ・医師の働き方改革に資する施策として院外用デバイスの貸し出し促進
- ・患者動画説明サービスの導入支援
- ・RPAロボット作成支援（16業務に適用）
- ・BIツールを活用したデータ活用支援（35本のデータ抽出）
- ・職員が無償利用できるLLM（大規模言語モデル）の導入

3 情報セキュリティ対策

情報セキュリティをを取り巻く最新の動向を踏まえ、セキュリティ対策を実施した。

- ・不審メール事案等に対し、掲示板で注意喚起を実施
- ・外部接点であるVPN機器の脆弱性対応のためアップデートを実施
- ・クリップボードを経由したデータ流出防止策を実施
- ・厚生労働省主催の「医療機関におけるサイバーセキュリティ確保事業」にて、外部接続点のリスク洗い出しと対策を実施
- ・厚生労働省「医療機関のサイバーセキュリティ対策チェックリスト（令和6年度版）」で求め

られる対策を実施

- ・佐賀県サイバーテロ対策協議会に入会し情報の共有を開始（2024年9月）
 - ・佐賀県自治体病院開設者協議会主催のサイバーセキュリティ演習に参加（2024年9月26日）
 - ・情報セキュリティの専門家を招き、全職員対象の情報セキュリティ研修会を開催（2024年10月6日の病院マネジメント推進会内にて）。
- 講師：佐賀県警察本部生活安全部 サイバー犯罪対策課 サイバー指導官 藤井 信吾 氏
- 演題：サイバーセキュリティ対策について
- ・IT-BCP（事業継続計画）の策定（初版）
 - ・遠隔地バックアップ構築準備（2025年度開始予定）

4 佐賀県診療情報地域連携システム協議会事務局業務

2016年度より、佐賀県診療情報地域連携システム「ピカピカリンク」の協議会事務局業務を当館が拝命し、医療情報部がその事務に当たった。

(1) 協議会の開催

2024年度は全1回の協議会を開催し、ピカピカリンクの運営について審議を行った。

第1回(2024年8月31日)

- ・会長の選出及び副会長の指名について
- ・ピカピカリンクの現状について
- ・株式会社エスイーシーよりID-Linkサービスに関するご案内
- ・システム運用規程の改正について
- ・訪問看護ステーション及び介護事業所の参加に係る例外取扱承認について
- ・報告事項

(2) ピカピカリンク勉強会の開催

ピカピカリンクヘルプデスク（NPO法人佐賀県CSO推進機構）と協力し、県内各地において、ピカピカリンク勉強会やブース出展を行った。

- ・リレーフォーライフジャパン
（2024年9月28日、約750名参加）
- ・好生館地域医療連携懇話会
（2024年10月11日、約230名超参加）
- ・日本医療マネジメント学会
（2024年12月6日－7日、約800名参加）
- ・好生館シンポジウム
（2025年2月7日、約60名参加）

[がん登録関係]

1 院内がん登録業務

当館を受診したすべてのがん患者について診断、治療、予後に関する情報を集め、整理・保管を行った。これらの情報は、次の機関にデータ提出を行った。

- ①院内がん登録全国集計及びQI研究（国立がん研究センター）
 - ・全国集計：2023年診断症例
 - ・予後情報付き集計：2012年診断10年予後付き症例
 - ・QI研究：2022年診断症例に対するDPCデータ
- ②がん登録等の推進に関する法律に基づく「全国がん登録」の届出（佐賀県）

2 全国・地域がん登録業務

佐賀県から受託している『佐賀県がん登録事業』については、2016年1月のがん登録推進法施行に伴い、「全国がん登録」として届出が義務化された。

今年度は、以下の業務及び各調査依頼に係る提出を実施した。

（全国がん登録に係る調査依頼・提出：国立がん研究センター）

- ・罹患データ：2022年・2023年診断症例
- ・遡り調査：2021年死亡診断症例
- ・住所異動確認調査：実施なし

（地域がん登録）

- ①生存確認調査（住民票照会実施）
 - ・10年生存確認調査（2013・2014年診断症例）
- ②調査依頼対応
 - ・届出施設からの予後調査依頼対応

3 情報発信について

- ①館内のデジタルサイネージにて「がん検診受診」の啓発を行った。
- ②佐賀県医師会報にて「全国がん登録」の届出締切等について案内した。（No.1210掲載）

4 今後の課題と展望

病院情報システムに関しては、引き続き安定稼働を維持しつつ、病院を取り巻く環境変化に迅速に対応する運用・保守を実施していく。また、国から求められる医療DXやサイバーセキュリティ対策に注力しつつも、当館独自の現場の課題や経営課題に対してシステムの観点からソリューションを提案し、解決を支援していく。特に、2026年度の増築

棟稼働におけるシステム機器導入、2027年度の次期病院情報システム更新においては、地域（患者）・職員・病院が三方よし、となるような取り組みを実施していく。

がん登録業務においては、構築データの正確性と利活用推進を継続し、次のような取組を推進していく。

- ・生存確認調査実施により信頼性を高める。
- ・全国がん登録業務においては、県主管課と共同し、届出施設と件数増加、正確な届出情報収集に努め、がん対策に寄与するデータ提供を拡充していく。

（文責：大熊 義明）



医療支援部

1 スタッフ

2024年度のスタッフ

職 名	氏 名
薬剤部長	草葉 一友
栄養管理長	小根森智子
検査部技師長	松下 義照
リハビリセンター技士長	市丸 勝昭
MEセンター技士長	馬場 英明
放射線部技師長	濱田 洋
相談支援センター	原田 健作

2 医療支援部門会議

毎月第3水曜日に医療支援部門会議を行っている。本会議は医療支援部門の意見を集約し統括責任者会議に報告すること、および統括責任者会議の意向を各医療支援部門に伝達し円滑な病院運営に寄与することを目的にしたものである。また、医療支援部門は、医師・看護師と協働し医療の質向上に寄与している。

3 各部門が関わった2024年度主な診療実績

(ア) 薬剤部

育休等で欠員5名と業務遂行が難しかったが、皆で知恵を出し合い業務改善と意識改革を行い、薬剤管理指導件数は15,845件/年で前年度を6%上回った。また退院後の安全な服薬管理のため退院指導件数の増加を目標にしたが前年度比21%と大きく増加した。また抗がん剤使用患者には保険薬局と連携して安全な服薬をサポートする連携充実加算を取得しており1,551件/年実施し前年度を27%上回り、更に入退院支援センターでの活動は全診療科に広がり7,371件/年実施し前年度を14%上回った。今年度は協調と努力の一年だった。

(イ) 栄養管理部

調理スタッフや管理栄養士の途中退職はあったが、食事の安定提供と臨床栄養管理の充実の両立に努めた。総栄養指導件数、栄養情報提供書件数、入院患者面談は共に前年より増加した。また、入院患者の栄養管理に軸足を置き、周術期栄養管理実施加算は1,839件（前年比446%）、早期栄養介入管理加算は計789件（前年比260%）と大幅に増加した。

(ウ) 検査部

検査件数は2,474,913件、外部委託検査数は45,396件と、2020年度以降右肩上がりに増えている。また、がん遺伝子パネル検査も43件となり、前年度比19%と増加している。

(エ) リハビリテーションセンター

新患処方件数は理学・作業・言語療法合わせて7,143件（前年度比99%）であった。診療報酬実績は総計30,167,710点（同104%）であった。疾患別リハビリの実施件数は60,236件（同107%）、単位数は99,807単位（同104%）であった。診療報酬改定で急性期リハビリ加算が新設され6月より算定を開始した。

(オ) MEセンター

臨床症例（血液浄化関連・手術部関連・心臓カテーテル関連）件数は8,845件/年で、前年より1.16倍と大きく増数となった。医療機器点検件数については、前年度より2,600件程度増加（44,054件/年）し、より安全管理に努めた。医師へのタスクシェアの一環である透析患者への穿刺業務施行。土・祝日実施率 2024年度目標40%に対し49%を実施した。

(カ) 放射線部

放射線治療装置の更新も無事に終わり、治療件数は例年並みの件数となった。また、放射線部の全体件数は年々増加しており、2024年度の全件数前年度比は約105%であった。放射線部内でのタスク・シフト/シェアを推進することでCT装置3台体制の時間帯を設け、待ち時間への対策を行った。

(キ) 相談支援センター

相談者数4,070名/年に対して、9,617件/年（前年度比-3,319件）の相談対応を行っており、相談内容として最も多いのは転院・退院支援で、全体の67%を占めている。退院支援に関する診療報酬は、入退院支援加算が12,967件/年、介護連携指導料が215件/年であった。

4 医療支援部門実習生の他部門見学実習

各医療支援部門で実務実習を行っている学生が、他の医療支援部門を訪問し各部門のスタッフから業務内容の説明を受ける見学実習を開催した。

薬学部学生 5 名、放射線部学生 7 名、検査部学生 3 名、栄養管理部学生 5 名、ME センター学生 1 名、リハビリテーションセンター 3 名の合計 24 名が見学を行い前年度より 3 名増加した。他の医療支援部門がどのような業務を行っているのかを学び医療職としての視野を広げ多職種連携の重要性を理解できたようだ。

5 その他、医療支援部門の実績

- ・各部門のトピックスを毎月 1 部門ずつ病院運営会議で報告
- ・医療支援部門教育セミナーを「私たちが災害現場で活動する時の最低限の知識」について開催
- ・病院機能評価認定更新に関する周知および対策検討
- ・各部門における専門・認定名簿の作成、更新
(文責：草葉 一友)



患者・家族総合支援部

地域包括ケアシステムの構築を目指し、患者さんの初診、入院から転退院、退院後の外来治療に至るまでを総合的にかつ包括的に支援する。4部門から形成されており、地域医療機関との連携業務を担う「地域医療連携センター」、入院決定から関わり外来から入院中および転退院までを支援する「入退院支援センター」、医療費や医療扶助など療養上の相談や医療情報の提供など様々な相談に対応する「一般相談支援センター」、がん患者や家族または支援者からの相談や情報提供を行う「がん相談支援センター」などがある。各部門・センターの活動内容は別途記載されている通りであるが、定期的（1回/月）に患者・家族総合支援部センター長会議を開催し、センター間の情報共有を行っている。

今後とも更なる医療の質向上に寄与し、患者・家族に選ばれる病院となることを目標としている。

（文責：緒方 伸一）

地域医療連携センター

1 はじめに

地域医療連携センターは、事務・看護師で構成している。

- ・事務～予約業務・データ管理・情報提供
- ・看護師～医療相談・在宅支援・医療機関訪問

地域医療支援病院として地域の医療機関と連携・協力しながら良質で安全な高度医療の提供をめざしている。

2 スタッフ

職 名	氏 名	備 考
センター長	三好 篤	医師
副看護師長	谷口恵梨子	
看護師	社頭夕佳里	
看護師	瀬戸 亜希	
看護師	小野 祐子	
事務係長	本告 信博	
副主査	岡安美佐都	
副主査	末次 愛	
主 事	山邊 梨加	
主 事	江原 瑠菜	
事 務(臨時)	川副菜穂美	
事 務(臨時)	東島 幸	
事 務(派遣)	白仁田多恵	

(2024年7月1日現在)

3 活動報告

- 1) 連携実績の把握（実績収集とデータベース化、各種統計作成）

各診療科別（各月）の紹介数・逆紹介数を毎月把握し実績を確認。

年度平均：地域医療支援病院紹介率99.4%、地域医療支援病院逆紹介率170.6%

- 2) 『紹介患者専用窓口』業務

紹介状を持参した患者の対応、紹介元医療機関への報告（来館・入院・手術・退院・死亡）、地域医療機関との連携調整を行った。

紹介患者総数:18,688人（初・再診含む、延べ人数）

- 3) 開放型病院 指定病床数 10床

今年度延べ入院患者数：1,525人

指定病床利用率：41.8%

- 4) 事前予約業務

インターネットによる紹介実績：3,536件

FAXによる紹介実績：3,107件

個人による紹介実績：894件

- 5) 術前口腔ケア歯科診療

佐賀県歯科医師会と連携し、地域の歯科医師に術前患者の口腔ケア歯科診療を依頼。地域の歯科医師より診療後の報告書をFAXにて受け、連携を行った。実績：1,190件

- 6) 診療情報地域連携システム参加同意書

ピカピカリンク参加同意（連携患者数）

実績：2,393件

- 7) 外部持込CD ウイルスチェック

連携医療機関より提供されたCD-Rのウイルスチェックを行っている。実績：5,599件

- 8) 外部持込CD PACS入力

連携医療機関より提供されたCD-R画像を診察時に見ることができるようにPACS入力を行っている。実績：5,525件

- 9) 外部持込フィルム PACS入力

連携医療機関より提供されたフィルム画像を診察時に見ることができるようにPACS入力を行っている。実績：49件

- 10) CD出力

連携医療機関への診療情報提供目的でのPACS出力を行っている。実績：4,940件

- 11) 医療機関との面会

連携医療機関への訪問面会。Zoomを使用しての面会。

訪問面会件数：15件 Zoom面会件数：59件

- 12) 地域連携に関する情報提供

医療機関からの電話又は文書による診療情報提供書等の問合せ対応。実績：621件

館内からの診療情報提供依頼、予約取得等の対応。実績：290件

連携先へ外来医師不在連絡

- 13) リーフレット

患者さんへかかりつけ医を持っていただくことと、先生方との連携を深め、逆紹介を推進していくための取り組み。

医療機関数：60件、総発行部数：1,050枚

- 14) 地域連携（脳卒中、大腿骨）パスのデータ管理

地域連携（脳卒中、大腿骨）パス、カンファレンスに参加。連携病院との意見交換を行った。

脳卒中パス適用患者数：186人

大腿骨パス適用患者数：117人

15) 医療相談対応（電話・窓口）

相談件数：665件

16) 在宅支援（訪問看護）に関すること

訪問診療・看護の必要性について考慮、支援を行った。

退院前患者カンファレンスに参加。実績：213件

17) 各種研修について

県民公開講座として、「専門医」と学ぶ血圧の“ホント”－健康寿命の秘訣は食事と運動にあり！－をテーマに2024年8月3日に講座を行い、講座の様子を収録し、後日、当館公式YouTubeチャンネルで配信を行った。

18) 地域医療支援病院委員会（年2回開催）

《報告事項》令和5年度 事業実績報告・地域医療研修状況（2024年7月30日開催）

《報告事項》令和6年度 事業実績報告・地域医療研修状況（2024年4月～11月）（2025年1月28日開催）

4 今後の課題と展望

地域医療連携センターでは、ご紹介いただく初診患者に対して、事前に予約していただくよう案内している。2024年度予約受付状況はインターネット予約3,536件、医療機関からの予約3,107件、個人からの予約894件となっており、そのうちインターネット予約が全体の46.9%となっている。今後は、事前予約の中のインターネット予約の件数増を図るために、インターネット予約の便利さ、使い勝手の良さを最大限案内していきたい。

看護師は、電話や窓口の医療相談、転院（前方、後方）調整、入院・外来患者の在宅支援業務を中心にを行っている。院内外のお職種とシームレスな関係を構築し、安全で良質な医療提供を常に心がけている。

情報共有のツールであるピカピカリンク（診療情報地域連携システム）を利用することで、タイムリーな情報提供が行えるようになった。今後も利便性を継続的にアピールし、閲覧施設の拡充、登録患者数の増加を目指す。

退院前共同カンファレンスの開催、患者家族相談、地域との連携が年々増加している。2024年度も積極的に、対面、オンラインのカンファレンスを継続して行った。

2021年4月より各病棟に退院支援看護師を配置。支援が必要なすべての患者に安心して生活できる体制を整えるために、院外とのさらなる連携強化、退院支援看護師の育成、院内連携の充実などが今後の課題である。（文責：中山 佳郎）

入退院支援センター

1 はじめに

入退院支援センターは、予定入院患者に入院決定時より多職種で関わり、安心・安全に入院生活を送ることができるように、医療面や生活面の問題解決の早期着手をめざし2018年4月に稼働を開始した。

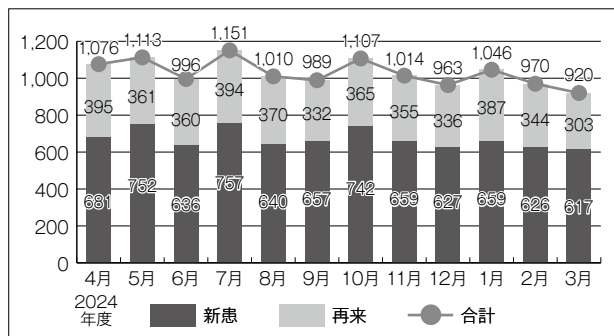
2 スタッフ

2024年度 4月	
センター長 医師	1名(兼任)
副センター長(副看護師長) 企画経営課長	1名(兼任) 1名(兼任)
看護師	10名(専任)
薬剤師	8名(交代制)
医師事務作業補助者(DA)	4名(専任)
管理栄養士	4名(交代制)
MSW	予定入院病棟 MSWが担当
事務	1名(専任)

1) 対応診療科数と介入率

	2024年												2025年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1月	2月	3月
介入診療科数	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
予定入院介入率(%)	96	97	96	95	92	91	94	96	94	94	94	94	94	94	94

2) 対応患者数の推移



3) 各職種の活動

各職種が専門性を活かし、それぞれが患者と関わる中で知り得た情報を共有し、連携・協働しながらPFM (Patient Flow Management) を行っている。

●看護師

2024年度は26診療科対応となった。1日あたりの患者総数、最高89名、平均51名。看護師一人あたりの対応患者数は、最高15名、平均6.2名であった。

入院が決定し、入退院支援センター介入患者を各々の看護師が受け持ち、入院までのスケジュール管理、入院生活の説明やクリニカルパスを使用した治療・検査の説明などを行っている。また入院前に患者の情報収集を行い、様々な視点からリスク評価し他職種や病棟・外来と連携することで患者が安全に安心して入院生活が送れるよう支援している。

入院前より退院後を見据えた関わりをすることで、入院決定時から退院までの一貫した看護の提供と患者サービスの充実を図っている。

(文責：森永 育美)

3 活動実績

開設年度は4診療科の介入から始まり、2024年度新規介入はなく、全26診療科の介入を行った。介入した予定患者総数12,355名(新患8,053名、再来4,302名)介入率は94.4%となった。



●医療ソーシャルワーカー（MSW）

医療ソーシャルワーカー（以下、MSW）は、入院中および退院後の生活を見据え、金銭的問題や生活上の課題を抽出し、支援の方向性を明確にすることで、患者が安心して入院できるよう介入を行っている。

2024年度は120名に対して介入を実施し、延べ157件の課題に対応した（前年度比+42件）。課題の内訳としては、入院前スクリーニングシートに基づく該当項目が133件（前年度比+64件）、看護師からの介入依頼が24件（前年度比-22件）であった。

入院前スクリーニングシートにおいて最も多く該当した項目は、「医療費や生活費など経済的な心配がある」で58件（44%）を占めた。また、看護師からの介入依頼で最も多かった内容は「転院相談」であり、6件（25%）であった。

このように、入院前からMSWが介入することで、早期に社会保障制度の提案や、患者・家族が抱える課題の把握が可能となる。これにより、入院までの準備期間や入院後の療養生活を、安心・安全に過ごせるよう支援を提供している。

（文責：原田 健作）

●薬剤師

薬剤師は、医療機関で薬剤を処方されている患者に介入し、お薬手帳などを参照し処方薬剤の詳細や服用状況の確認、副作用・アレルギー歴の聴取等を行っている。また、手術や検査の前に中止（休薬）が必要な薬剤について、医師の休薬指示や院内プロトコルに基づき休薬説明を行っている。サプリメントや市販薬の継続服用を希望する患者、気管支喘息および薬剤アレルギーのある患者にも介入し、多職種へ情報を提供している。

2024年度はのべ7,380件（前年度比1.03倍）に介入し、休薬対象薬剤を服用していたのは975件（前年度比1.06倍）であった。そのうち32.6%：318件（前年度30.6%：282件、前年度比1.13倍）で医師に対し休薬の提案を行った。院内プロトコル対象の診療科が増加したことで、医師への休薬に関する疑義照会件数は減少し、業務の効率化に寄与していると考えられる。休薬提案以外での介入事例としては、保険薬局への中止薬剤の抜き取り依頼やサプリメント・市販薬の中止説明などを行っている。

また、保険薬局やかかりつけ医との情報共有を目的とし、2023年2月より休薬説明を行った患

者に対し「検査・手術に伴う休薬についての説明書」をお薬手帳にも貼付している。保険薬局へ情報提供を依頼した際に返信用として使用する「入院前の患者の服薬状況等に係る情報提供書」を整備し、当館ホームページに掲載している。

（文責：竹内 恵）

●管理栄養士

管理栄養士は入院前の食事状況の確認、栄養評価、必要に応じて栄養指導を行っている。2024年度に介入したのは7,980人で、2023年度の1.03倍に増加した。栄養評価はALB値等の検査所見や食事摂取状況、体重変化等から総合的に行い、良好86.2%、やや不良8.8%、不良5.0%であった。栄養指導件数は585件と2023年度の1.1倍に増加した。指導の対象疾患はがん（40%）、糖尿病（32%）が多かった。栄養状態が不良または低下のリスクがある患者、また、食事療法が必要な基礎疾患を持つ患者に対しては、入院までの食事内容の改善方法を説明している。特に手術予定の患者については栄養状態の維持・改善、血糖コントロールを目的に積極的に介入している。

また、入院時から適切な食事提供ができるよう食事内容の調整を行っており、対応が必要だった患者は全体の42.3%、嗜好対応や栄養量の調整、食事形態の調整が多かった。個別での特別な対応が必要な場合には病棟担当管理栄養士と情報共有し、スムーズに対応できるようにしている。

（文責：堀之内 梨恵）

●医師事務作業補助者（DA）

医師事務作業補助者（以下DA）は入院が決定した患者さんに対して、医師の指示のもと入院前に必要な検査オーダーやクリニカルパス・コンサルトシート作成などを行っている。対応件数は年間12,635件、代行率24%、1日平均52件（前年度比1.06倍）と増加している。また、術前検査不足や検査結果で異常所見を認めた場合は追加検査やコンサルトを行っており、指示内容やオーダー内容相違などの問合せを含めると年間1,581件の検知確認をし、1,114件の追加代行入力等を行った。素早い対応を心掛けて患者満足度の向上及び医師の負担軽減に繋げている。今後の課題として、業務効率化のために各診療科への問合せを減らす取り組みを進めていく。

40歳以上で全身麻酔下手術を対象とした肺血栓塞栓予防ガイドラインチェックリストの作成状

況については、未作成分に対して電子カルテの付箋機能で医師へ作成を促している。年間2,875件に対し、作成依頼375件（依頼前作成率80.7%）、退院までの作成率99.5%を達成し高水準で推移している。

そのほか、全身麻酔下で手術を予定している全例に対して周術期口腔管理を行う取り組みを地域医療連携センターとともに2024年6月から開始した。歯科医療機関への診療情報提供書の記載を各診療科DAが作成しやすいように簡素化した結果、作成件数は2023年度の181件から2024年度は1,351件と大幅に増加した。

患者さんが確実に術前検査等を行い、安心して入院・治療ができるよう今後さらにDAのスキルアップを目指し、医師のタスクシフトを進めていく。

（文責：長谷川 愛）

4 今後の課題と展望

2024年度は医療DXの推進として、入院説明動画を作成し、運用を開始した。今後は入院説明の動画を活用しながら、より効果的・効率的な対応を行い、患者家族の満足が得られるようにしていきたい。

（文責：森永 育美）

++ 相談支援センター

1 スタッフ

職 名	氏 名	職 名	氏 名
相談支援センター長	松本 健一	医事課長	田中 佳奈
MSW副主査	原田 健作	MSW副主査	辻田 亜衣
MSW副主査	山口 可奈	MSW副主査	岩村 昌子
MSW主事	馬場 早希	MSW主事	細川 萌
MSW主事	坂本 大輔	MSW主事	大石喜美子
MSW主事	宮原あいか	MSW主事	古賀久美子
MSW主事	島 彩織	MSW主事	原 友美
MSW主事	上瀧 知典	事 務	鮎川 映子
事 務	中川 智子		

2 活動実績

1) 相談支援センターの業務概要

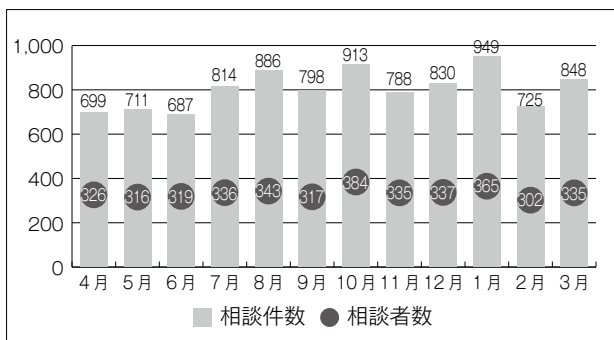
相談支援センターでは、患者および家族が安心して療養生活を送れるよう、医療・福祉・生活に関する多様な課題に対する相談支援を行っている。医療ソーシャルワーカー（以下「MSW」という。）が対応し、専門的知識をもとに、QOLの向上と権利擁護を目的とした支援を提供している。

また、多職種連携や地域機関との協働体制を重視し、切れ目のない支援を実践するとともに、社会資源の活用や制度改善への提言も行い、地域包括ケアの推進に貢献している。

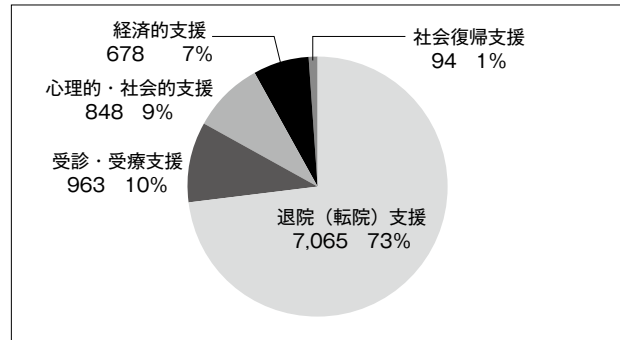
2) 相談件数の推移（相談手段別）

2024年度の相談実績は、4,015人（前年度比－281人）、延べ9,648件（前年度比－867件）であり、月別の相談件数および相談内容の内訳は、下表のとおりである。

2024年度 相談実績（件数・人数）



2024年度 相談種別



3) 各事業の報告

①退院支援

2024年度は、退院調整の対応件数は1,938件（前年度比＋109件）であった。また、介護支援連携指導は215件（前年度比－25件）実施した。

さらに、特に連携の多い25の医療機関との間で、定期的な意見交換の場を設け、連携体制の強化に努めている。

②がん相談支援センター

2024年度の相談対応件数は2,109件（前年比－650件）であった。相談内容の内訳は、転院・退院に関する相談が47%と最も多く、次いで介護保険に関する相談が14%、医療費に関する相談が9%となっている。

③性暴力救援センター・さがmirai

当館は、佐賀県より性暴力被害者支援事業の委託を受け、「性暴力救援センター・さがmirai」の業務を実施している。2024年度は、47名（前年度比－21名）に対し、相談および医療支援を延べ200件（前年度比－49件）実施した。

④外国人患者の受診支援

2024年度は、174名（前年度比＋144名）の外国人患者に対し、365件（前年度比＋50件）の対応を実施した。受診患者の90%はアジア圏出身であり、対応言語は日本語が最も多く73%、次いでベトナム語および英語が各8%であった。

3 その他の活動

1) 緩和ケア症例検討会

6月 12日 (水)	症例発表① 「末期がん患者の希望に添えた症例」 医療法人コメディカル 訪問看護ステーション三日月 大藪 雅美 先生 症例発表② 「AYA世代である24歳男性のがん終末期在宅看取りの一例」 医療法人 ひらまつ病院 ひらまつ在宅クリニック 小野 直子 先生	139 名
11月 13日 (水)	「難治性がん性疼痛に対しても膜下鎮痛法を用いて佐賀県内多施設で連携した1症例」 佐賀県医療センター好生館 緩和ケア科 部長 小杉 寿文 先生	63 名
2月 12日 (水)	「患者の“死”を経験した医療者への支援－デスカンファレンスのススメー」 佐賀大学医学部附属病院 精神神経科 助教 松島 淳 先生	99 名

2) 重要被支援者会議

1月 16日 (木)	「家族協力を得られない軽度知的障害患者への医療的・福祉的支援のあり方について」	29 名
------------------	---	---------

3) がん患者会 なごみの会

4月 22日 (月)	お家で簡単エクササイズ ①	5名
5月 30日 (木)	がん治療中のおしゃれ術 (眉・マツゲ編)	5名
6月 24日 (月)	むくみ予防！リンパ浮腫教室 ①	10 名
9月 30日 (月)	ものづくりで仲間づくり (切り絵教室)	6名
10月 31日 (木)	人生会議って何？ 未来の話していますか？ ①	9名
11月 25日 (月)	お家で簡単エクササイズ ②	4名

12月 23日 (月)	がん治療中のおしゃれ術 (髪・眉・マツゲ編)	7名
1月 27日 (月)	むくみ予防！リンパ浮腫教室 ②	11 名
2月 27日 (木)	人生会議って何？ 未来の話していますか？ ②	4名
3月 24日 (月)	ものづくりで仲間づくり	5名

4 今後の課題と展望

相談支援センターでは、支援内容の複雑化・多様化が進む中、早期介入や多職種連携の強化、医療機関との連携および窓口の認知向上が課題である。今後は、人的体制の整備と業務効率化を進めつつ、地域との連携を強化し、誰もが安心して相談できる体制の維持と充実を図る。

(文責：松本 健一・原田 健作)

++ Medical Link Office

1 スタッフ

Medical Link Doctor：松石英城（Director）、千々岩理佐（医師）、朝長礼音（医師）

2 活動実績

医療の質を高める、身近な医療を支援する、佐賀県に医師を集める、という3つの課題を解決するために、2021年（令和3年）4月Medical Link Officeは発足した。

院内での支援は、病棟へホスピタリスト（病院総合医@日本病院会）を配置することによって、医師の働き方改革の一翼を担う一方、医療安全と職員満足度の向上に寄与し、患者満足度の向上を期すことにある。院外への支援は、公的医療機関への医師派遣をシステム化（身近な医療支援チーム@佐賀県健康福祉部医務課）することにある。県の事業に好生館が協力することで、地域の診療体制を支援する。

Medical Link Doctor（3名）の業務

院内支援医：2024年度（令和6年度）は整形外科患者入院病棟で週5日勤務、3名で分担

病棟へ配置されホスピタリストとして働く。

(1)専門診療科入院患者を担当医として併診する、(2)病棟かかりつけ医として患者回診を行う、(3)コメディカルと連携して管理に携わる（医療安全、感染、薬剤、栄養）、(4)専門診療科医不在時に医師オーダ業務を代行する、などの業務に携わった。4階東以外の病棟でも整形外科患者に対応。

地域医療支援医：2024年度（令和6年度）は唐津市民病院きたはたで週2回勤務、1名が担当

好生館に在籍したまま、公的医療機関へ出向し、プライマリケア医として働く。

週2回の外来診療に従事し、また、好生館の医療を紹介する役割を担った。

3 教育・研究・その他の活動

[院内発表]

令和6年度好生館医学会1月例会
(2025年1月16日)

演題名「災害時の医師の働き方」

4 今後の課題と展望

Medical Link Officeの広報活動ならびにMedical Link Doctorの採用活動。

(文責：松石 英城)

総合教育研修センター

1 総合教育研修センターの歩みについて

「総合教育研修センター」は、2016年に新設された部署です。病院支援部門の一翼を担っており、新規採用職員へのオリエンテーション、新人教育、各種の研修および生涯キャリア支援などを担ってきた教育部門を統合し、臨床研修部門、専攻医研修部門、看護師部門（看護師の特定行為研修・キャリア支援を含む）、コメディカル部門および事務部門にも各々、専任の担当者を配置しました。

全職員を対象として、新規採用職員のアクティブラーニング、病院マネジメント推進会の立案と開催、必須研修会のeラーニング提供を行っています。臨床研修医に関しては、募集と採用、研修プログラム管理と教育（勉強会やハンズオン・セミナーの開催）を担っています。看護部門では、看護師の教育・支援、特定行為研修、キャリアラダー研修を担っています。また、多職種研修会の開催、各種の心肺蘇生関連講習会やハンズオンセミナーの提供も行っています。

好生館に勤務する職員ひとりひとりが、当館での仕事に自信と誇りを持ち、働く喜びを感じていただけるようにサポートしています。

2 活動実績

A. 新規採用職員の採用時研修

2024年に新規採用された職員138名（臨床研修医含む）に対し、採用時研修会を4月1日～5日に行いました。研修では好生館職員であることを自覚し、専門職としての責任と義務を理解することを目標に、病院の理念、就業規則、接遇研修、情報管理、医療安全～感染予防研修を行いました。また、臨床研修医1年次17名（基幹型11名、たすきがけ6名）は、佐賀県研修医合同オリエンテーション（佐賀県医師会主催）にも参加しました。

B. 臨床研修医関連の活動実績

◇臨床研修医の募集および選考

2025年度も佐賀県医療センター好生館臨床研修プログラム（基幹型）では、12名の採用予定でした。小論文と面接による採用試験を3回にわけて実施しました。

JRMP（日本医師臨床研修マッチング協議会）によるマッチングの結果、好生館臨床研修プログラム

（基幹型）には12名全員がマッチしました（9年連続フルマッチ）。

採用予定年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
基幹型定員（名）	11	12	12	12	12	12
受験者数（名）	45	34	32	36	31	23
マッチ者数（名）	11	12	12	12	12	12

◇レジデント委員会・臨床研修管理委員会の開催と修了式

第20期（2023年4月1日～2025年3月31日）の臨床研修医の評価と更なる臨床研修の充実を図るため、2025年3月に「レジデント委員会」、及び「臨床研修管理委員会」を開催しました。最終調整の結果、基幹型研修医12名の好生館での臨床研修修了が正式に認定されました。

2025年3月12日、樗木 等 理事長より基幹型研修医に、臨床研修修了証が授与されました（写真1参照）。



写真1

◇学会・研究会発表、論文投稿

2024年度は、合計6演題の学会発表を行いました。研修医の教育に関することが主です。また、臨床研修医の先生方（福田先生、原口先生、森先生、小島先生）には、好生館医学会で発表した演題とともに、佐賀市医師会報の「今月の症例」欄に論文投稿していただきました。

◇レジデント勉強会開催と好生館での工夫

好生館では伝統的に、「レジデント勉強会」を毎月第2、第4木曜日に開催してきました。2024年度からは開催時間を18:00～19:30としました。臨床研修医より発表（ERで判断や対処に苦慮した症例）後、後半に館内講師によるレクチャーやハンズオン講座を行っております。症例発表の練習機会になるのみならず、症例を共有することで学びが深まっています。

館内講師による研修医向けレクチャーは、臨床研修ガイドラインに基づき、2年間で身につけるべきとされる内容を主に取り扱っています。

4月① ER地雷症例（総合教育研修センター甘利／藤田医師）

② ER snap Diagnosis（総合教育研修センター甘利／藤田医師）

5月① 急変へのMegaCode対応（総合教育研修センター甘利／藤田医師）

② 整形外科のレントゲン診断と基本手技（整形外科：塚本医長）

6月① 腹部エコー（松本技師）

② 心エコー（山道技師）

7月 ERにおける循環器対応（循環器内科：大坪医長）

ERでの冷汗症例（総合教育研修センター甘利／藤田医師）

8月 ACP（緩和ケア科：古賀医師）

子供のみかた（小児科：馬場医師）

9月 皮膚・真皮縫合①（形成外科：原田部長、整形外科：塚本医長）

感染症診療に必要な微生物の基礎知識（感染制御部：福岡部長）

10月 感染症の同定と論理的抗菌薬の選択（感染制御部：福岡部長）

DAM・CICVへの対応（総合教育研修センター：甘利／藤田医師）

11月 胸部XPの読み方（呼吸器内科：岩永部長）
CT画像読影の基礎（放射線科：相部部長）

12月 ERにおける皮膚科疾患への対応のポイント
薬剤師からみたERでの論理的処方例（薬剤部：佐野薬剤師）

1月 皮膚・真皮縫合②（形成外科：原田部長、整形外科：塚本医長）

研修医時代に抑えておきたい脳神経内科的疾患

2月 糖尿病と内分泌代謝疾患（糖尿病代謝内科：吉村部長）

災害医療の要点（救急科：松本医長）

3月 ERでの冷汗症例/Pitfall症例を振り返って
（総合教育研修センター甘利／藤田医師）
（写真2参照）。



写真2

◇研修医のリクルート活動報告

佐賀県地域医療対策協議会臨床研修ワーキンググループ会議が定期開催され、佐賀県の医師確保の計画が行われています。「佐賀県医師育成・定着支援センター」（佐賀大学医学部内に設置）でも臨床研修に関するリクルート情報を発信しています。

また、病院ごとの研修プログラム説明会関連では、2024年5月18日に対面形式のレジナビ九州合同研修プログラム説明会に参加しました。オンライン形式の研修プログラム説明会では、マイナビRESIDENT臨床研修プログラム説明会（2024年5月22日）およびレジナビFairオンライン2024 佐賀県限定臨床研修プログラム説明会（2025年2月12日）に参加しました。いずれの研修プログラム説明会でも現役臨床研修医に参加し、医学生とのQ&Aコーナーで回答いただきました。（写真3参照）。



写真3

たすきがけ研修に関しては、九州大学協力病院群の初期・後期臨床研修説明会（2024年6月29日開催）にて対面形式で医学生に説明し、佐賀大学教育関連病院の臨床研修プログラム説明会では、説明動画を供覧いただきました。

◇ JCEP(卒後臨床研修評価機構)の認定施設更新

当館は、2020年12月、佐賀県で唯一のJCEP認定研修施設となりました。2022年9月、更新審査(書面審査)を受け、無事合格し、2024年10月、対面審査にて再認定をうけました。認定はされたものの、まだまだ改善すべき点はあるのが現状です。現状に甘んずることなくより充実した研修体制の確立を目指して参ります。

◇ 病院見学者への対応

2024年度の病院見学者数は、計62名でした。病院見学の日程調整およびセッティングは、菊池副主査が行い、見学当日は、診療科の見学と総合教育研修センターの専従医師による研修プログラム説明、研修医専用室(医局2)やER~屋上へリポートの案内などを行いました。実際に働いている臨床研修医と話す機会を設けることにより、より具体的な研修イメージがわくよう工夫しております。

◇ 研修医関連のホームページの充実と研修医ブログ

好生館のホームページにはリクルート情報のみならず、研修医の“生の声”を届けるために、「研修医ブログ」のコーナーがあります。入職後の研修医から、参考にしたという声をよく聞きます。昨年に引き続き対話式の形態のものも掲載いたしました。

◇ NPO法人としてのAHA準拠心肺蘇生講習会開催

心肺蘇生講習会関連では、好生館トレーニングサイト(TS)が2007年2月から、AHA(アメリカ心臓協会)より正式なトレーニングサイトとして認定されたことに伴い、AHA BLSコース(1日間)、AHA PEARSコース(1日間)、AHA ACLSコース(2日間)を定期的に研修棟で開催しています。AHAのBLS/ACLSコース受講は、医師臨床研修制度の中にあってはコア・プログラムのひとつとなっているため、好生館でローテート研修する臨床研修医の先生方には積極的にコース受講を促しています。

開催頻度は、AHA BLSコースが平均3回/月、AHA ACLSコースが平均1回/月となっています。2024年度のAHA BLS/ACLSプロバイダーは155名であり、2025年3月末の時点で受講生の累計は6,269名に達しました。

地道な活動の結果、SNSなどで好生館TSのAHA講習会は充実しているとの情報が広まり、佐賀県内だけでなく近隣の県(特に長崎県や福岡県)からも受講生の応募がありました。また、上記155名の受講生のうち、佐賀県内の公的医療機関の職員を除い

た受講生数は43名(28%)にのぼり、総合教育研修センターが地域医療支援病院である当館の機能の一翼を担っているものと考えています。さらに、ベーシックなAHAコースの普及を目的に、2024年度から出張形式のFamily & Friendsコースの提供を開始しました。その第1弾として、2024年5月18日、SAGA-HIMATの職員13名に対して、上記ベーシックコースを行っています。

好生館TSは、佐賀県庁よりNPO法人として正式に認証されてから10年となりました。今後はより透明性を高めたコース運営を行うとともに、NPO法人の定款に記載しているように、医学生~研修医教育や災害医療にもウイングを広げ、また学校の養護教員、消防学校の生徒、一般市民(特に保育園の職員向け)への啓蒙活動などのミッションも実践していきたいと計画しています。

C. 看護職キャリア・ラダー関連の活動実績

看護職の教育・研修については、看護部教育運営委員会と連携し、各種研修の企画・運営・評価を行っています。2021年度からは、「好生館看護職 キャリアラダー」を導入し、当館の看護職員はレベルⅢ以上を目指して取り組んでいます。

2024年度には、このキャリアラダーを基盤として65項目の研修を実施し、延べ1,729名の看護職員が受講しました。また、2024年度のキャリアラダー認定状況は、レベル1からレベル4までの認定審査を実施し、合計79名の看護職員が認定されました。キャリアラダーを活用した体系的かつ組織的な教育の推進は重要であり、今後も看護部及び各部署との連携を強化し、看護職員のキャリアラダー認定取得を支援していきます。

D. 看護師の特定行為研修

2019年度から開始した当館の特定行為研修は、特定行為の実践を一般病棟に拡大することを目的に、当館独自の「救急領域外科コース」(10区分15行為)を新たに開設しました。内容は「胸腔ドレーン管理関連」「腹腔ドレーン管理関連」「創部ドレーン管理関連」「栄養に係るカテーテル管理関連」「術後疼痛管理関連の追加」の区分を新たに追加しました。

本研修は、看護師が業務と両立しながら受講できるよう、eラーニングを活用した自己学習と集合研修(演習)を併せ、1年4ヶ月のプログラムとして設定しました。区分別科目においては、2週間の診療科ごとの実習を4クール実施し、集中して学べる環境を整備しました。

2025年3月31日現在、区分別科目実習期間中であり、医師のカンファレンス参加や手術見学を通じて、対象患者の状態を把握し、アセスメント能力の向上を図っています。指導医の指導のもと症例を経験しながら学習に取り組むことで、知識・技術を身につけるだけでなく指導医との関係構築にもつながりました。

「救急領域外科コース」は、次年度7月に研修修了予定であり、今後も医師との連携を深めながら、より質の高い看護実践とチーム医療推進に貢献できるよう支援していきます。

eラーニング：用意されたコンテンツを視聴して
学習する研修方法

E. 医療支援部門の教育活動実績

当館のメディカルスタッフ、いわゆるコメディカル(栄養管理部、検査部、放射線部、リハビリテーションセンター、MEセンター、相談支援センター、薬剤部)では、多職種が連携して患者中心のチーム医療を推進するため、多職種連携セミナーや他部門見学を行い相互理解を深めています。2016年より「多職種連携セミナー」を開催してきました。一時期コロナ禍で中断もありましたが2022年から再開し、2024年度は「私たちが災害現場で活動するときの最低限の知識」について学び46名の参加がありました。また、各部門で病院実習を行う学生を対象に他部門の活動内容を現場で各技師長から説明を受ける他部門見学を実施し2024年度は24名の学生が他部門の見学を行いました。将来病院で勤務しても見ることが少ない現場を見学し説明を受けられるので非常に好評でした。そのため、次年度からは好生館の新人技師まで対象を広げて他部門の活動を見学する取組を開始します。

F. 各種の学生実習の把握、見学者の受け入れ

医学生、看護学生、薬学生、コメディカルの学生実習の学生実習計画の情報や見学希望を得て、好生館で実習する学生の全体的な把握や見学の調整を行っています。2024年度は、釜山の春海保健大学校からも、理学療法士・放射線技師・救急救命士の学生(総勢21名+ガイド1名)の見学も受け入れました。

(文責：菊池 智美、岡野 奈々、
田久保 衣友未、北村 たか子、金原 直美、
草葉 一友、甘利 香織、
藤田 尚宏、内藤 光三)

国際交流室

国際交流室は、好生館が国際的に開かれた病院であるための活動を行うことを目的として、2015年7月より活動を開始した。病院組織図の位置づけとしては、総合教育研修センターの下部組織である。国際派遣医療活動を支援する種々の団体で活動経験を有するチームで構成されている。職員の海外研修や国際医療支援活動に加え、当館を受診される外国人のサポート、他国の研修生や見学者の受け入れ体制の調整などに関わっている。2024年度の活動としては、11月20日に外国人受け入れ医療機関(JMIP)の更新受審をして認定を受けた。また12月19日には韓国の春海保健大学から来館された20名の見学者の対応を、総合教育研修センターと総務課庶務係のサポートを受けながら行った。今後は国際交流室の新室長のリーダーシップのもと、好生館が国際的に開かれた病院であることを目指して活動を継続していく予定である。

(文責：内藤 光三)

2024年度 病院マネジメント推進会 実績

開催日	回	テーマ		演者(敬称略)	出席者数
4月11日	第201回	保険診療研修会	保険診療の理解のために	佐賀県指導監査専門医 林田 潔	72
5月2日	第202回	メンタルヘルス／ハラスメント研修会	職場におけるメンタルヘルスについて	佐賀中部保健福祉事務所 保健師 桑原 早希	38
6月6日	第203回	院内感染対策研修会	当館における薬剤耐性菌検出状況 ～AMRアクションプラン成果指標の達成状況～	検査部 細菌検査室 佐野 由佳里	63
			抗菌薬適性使用 ～AMR対策アクションプラン目標達成に向けて～	薬剤部 武富 光希	
			手指衛生実施率70%を目指す！	感染管理認定看護師 山口 文美	
	医療安全研修会		取扱いに注意が必要な医薬品について ～インシデント報告からわかるもの～	薬剤部長(医薬品安全管理責任者) 草葉 一友	
			医療機器の安全使用について	MEセンター 臨床工学技士 川崎 倫	
7月4日	第204回	災害対策研修会	原子力災害拠点病院に期待される役割について	長崎大学病院 国際ヒバクシャ 医療センター教授／原子力災害 医療・総合支援センター長 宇佐 俊郎	68
8月9日	第205回	認知症ケア研修会	せん妄およびBPSDへの実践的アプローチ ー身体拘束最小化を踏まえてー	新見公立大学 健康科学部 看護学科 教授 井上 真一郎	40
9月5日	第206回	保険診療研修会	査定の現状とそこから学ぶこと	小児科 部長 西村 真二	72
		認知症ケア研修会	《8/9開催 認知症ケア研修会(ダイジェスト版)DVD 放映》 せん妄およびBPSDへの実践的アプローチ ー身体拘束最小化を踏まえてー	新見公立大学 健康科学部 看護学科 教授 井上 真一郎	
10月3日	第207回	情報セキュリティ研修会	サイバーセキュリティ対策について	佐賀県警察本部 生活安全部 サイバー犯罪対策課 サイバー指導官 藤井 信吾	61
11月7日	第208回	医療安全研修会	《医療放射線研修会》 放射線の安全利用について	放射線部 副主任技師 江口 寛晃	49
		院内感染対策研修会	血管内留置カテーテル関連血流感染症を減らそう！	感染管理認定看護師 山口 文美	
			当館における外来経口抗菌薬使用状況と今後の取り組み	薬剤部・AST・ICT 岩本 夢実	
12月5日	第209回	医療コミュニケーション研修会	困難事例から考える医療コミュニケーション	外来看護師長 石橋 はるみ	55
		褥瘡研修会	当館における褥瘡の歴史 ～これから、私たちが目指すこと～	皮膚・排泄ケア認定看護師 江口 忍	
1月9日	第210回	医療安全研修会	《医療ガス安全研修会》 酸素ボンベの取り扱いと点検／アウトレットの 取り扱いと点検	動画視聴	35
			《RRT研修会》 院内迅速対応チーム(RRT)活動報告	医療安全管理部 集中ケア認定看護師 梶原 早苗	
				ICU 特定看護師 福岡 敬典	
2月6日	第211回	医療倫理研修会	明日からできる緩和ケアコミュニケーション ACPとDNARの考え方	飯塚病院 連携医療・緩和ケア科 石上 雄一郎	46

※出席者数には DVD 研修およびeラーニングによる受講者は含めていない
総合教育研修センター

総合臨床研究所

1 臨床試験推進部

①スタッフ

吉本 五一、草葉 一友、宮崎 敦、永倉 優子、
溝口 佳代、古川 さとみ、志波 三紀子、
小島 友理子、只野 茉莉子、三浦 裕美子

②活動実績

- (1) 治験審査委員会、倫理審査委員会、利益相反審査委員会における業務
- (2) 治験のリモート体制の強化、必須文書の電子化に関する体制整備
- (3) スタッフ教育、勉強会の開催
- (4) 治験・臨床研究・特定臨床研究に係る規則・要綱・手順書・申請様式の改定
- (5) 特定臨床研究事務局業務

③今後の課題と展望

- (1) プロセス管理の充実
- (2) 依頼者に選定される実施体制整備とアピール
- (3) 医師主導治験を受け入れ可能とする体制整備
- (4) 臨床研究CRCの教育・人材育成

(文責：吉本 五一)

2 疾患病態研究部

①スタッフ

泉 秀樹

②活動実績

研究部が立ち上がって10年目となる2024年度において、泉部長は、非対称分裂における中心体の役割についての研究を、帝京大学先端総合研究機構の月田早智子教授（大阪大学名誉教授）と共同で行い、その成果を論文として投稿した。また中心体とオートファジーの関係についての研究を、財団法人がん研究会がん研究所・副所長の広田 亨先生と共同で研究を進めた。

③教育・研究・その他の活動

泉部長は、非対称分裂における中心体の役割についての研究を第47回日本分子生物学会年会で発表し、中心体とオートファジーの関係についての研究を第83回日本癌学会学術総会で発表した。

④今後の課題と展望

ようやく毎年、論文を発表できる体制が整ったので、他施設との共同研究を推進しており、将来的には、好生館臨床各科との共同研究ができればと考えている。

(文責：泉 秀樹)

3 疾患ゲノム研究部

①スタッフ

柏田 知美、安波 道郎

②活動実績

- (1) がんゲノム医療関係：がん遺伝子パネル検査を49件実施した。
- (2) がん遺伝子パネル検査の二次的所見として4例に遺伝性腫瘍原因遺伝子変異を検出した。そのうち、*TET2* 遺伝子変異の1例および*SDHD* 遺伝子変異の1例について末梢血DNAの塩基配列を明らかにして、同変異が生殖系列変異であることを確認した。
- (3) その他の遺伝医療として
 - ・ 遺伝学的検査の検査前カウンセリングを、MODY (maturity onset diabetes in young) 疑い、原発性無月経 (Turner syndrome 疑い)、皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症 (CADASIL) 疑い、反復性の低血糖発作 (カルニチン回路異常症 疑い) の患者・家族に対して実施した。
 - ・ 血液疾患染色体検査の二次的所見の開示：MDRS疑いの患者に対してTurner syndromeの診断がつき、その結果についての説明を補助した。
- (4) JSPS 科学研究費・基盤研究 (C) 「フッ化ピリミジン系抗腫瘍薬による薬剤性下痢予測バイオマーカーによる治療最適化戦略 (代表：安波道郎、分担：柏田知美)」、2年目の研究課題を継続した。

③その他の活動

長崎大学熱帯医学研究所・臨床感染症学分野(有吉紅也教授)との共同研究として本邦肺炎の臨床疫学研究、およびベトナムの小児感染症コホート研究など、アジア・アフリカの健康問題に関する研究に客員教授として継続して参加した (安波)。

④今後の課題と展望

- (1) 遺伝性疾患の診療に不可欠である遺伝カウンセリングを行う体制を整備・維持する。
- (2) がんゲノム医療連携病院としてがんゲノム医療を継続し、遺伝性腫瘍原因遺伝子変異等の二次的所見に的確に対応する。
- (3) 患者由来の疾患モデルの技術を導入して、病態解明や治療法開発につながる知見を得る。

(文責：安波 道郎)

4 疾患疫学研究部

①スタッフ

光石 はつみ、吉井 雅恵、原田 智可、吉武 真由子

②活動実績

当館で診断、治療および情報収集した諸疾患の患者データベースを構築・整理し、疫学的手法を用いて研究することで疾患の原因究明、予防、治療法を解明していくことを目的としている。現在は、がん登録部門のみの稼働状況である。

また、佐賀県から受託している「佐賀県がん登録事業」について、佐賀県がん登録室として業務を行った。

- (1) 院内がん登録業務（収集分析したデータは本年報内で別途報告）
- (2) 全国・地域がん登録業務（佐賀県から受託している『佐賀県がん登録事業』）

③今後の課題と展望

蓄積されたがん登録データの多角的分析を通じて、佐賀県特有の疾患動向と地域特性の解明を進め、佐賀県のがん対策の推進に貢献したい。

（文責：光石 はつみ）

診断基準の策定

・下部消化管疾患研究会（世話人）

- (2) 医療統計ゼミナールを通じて、統計学の基礎的な教育を行う。
- (3) 他施設の研究者と積極的に共同研究を実施し、研究成果を発信する。

（文責：貞嶋 栄司）

5 臨床統計支援部

①スタッフ

貞嶋 栄司

②活動実績

- (1) 臨床研究の支援（統計解析に関する相談32件、統計解析依頼16件、論文掲載 9編）
- (2) 医療統計ゼミナールの開催（全9回：基礎編5回、実践編4回）
- (3) 医療統計コンサルティングの受託（外部施設からの受託7件、論文掲載4編）

③その他の活動

- (1) 佐賀県国民健康保険団体連合会における保健事業・支援評価委員会の支援
（佐賀県在住の後期高齢者の栄養状態に関する疫学調査）
- (2) 急性血便におけるコホート研究
（CODE BLUE-J 試験）
- (3) メタアナリシスの方法論に関する研究（大阪大学大学院医学研究科情報統合医学講座医学統計学 服部聡教授との共同研究）

④今後の課題と展望

- (1) 医学研究者とともに共同研究に参画し、質の高い医学研究を実施する。
・膵臓学会：High grade PanINの組織学的

・2024年度 外部資金研究課題・研究助成

研究事業名・研究助成等			課題名・助成内容
科学 研究費 助成事業	学術研究助成基金 助成金	基盤研究(B)(一般)	日常的運転行動記録と下肢の自己受容感覚解析によるペダル踏み間違い事故の要因解明(分担：江里口)
		基盤研究(C)(一般)	ワゴンホイール効果を応用したパーキンソン病等による思考緩慢の測定法開発と臨床応用(代表：江里口)
			腎細胞癌のparadox: 腎周囲脂肪と腎癌の関連についての検討(代表：柏木)
			フッ化ピリミジン系抗腫瘍薬による薬剤性下痢予測バイオマーカーによる治療最適化戦略(代表：安波 分担：柏田)
			シクロデキストリンによりオートファジーを誘導する、白血病の新規治療法開発(代表：久保田)
			新規核酸医薬技術と葉酸修飾シクロデキストリンを用いる白血病治療法の開発(代表：久保田)
			COPD患者における骨格筋－腸内細菌叢関連と新規リハビリテーション介入手法の開発(分担：貞松)
			急性心筋梗塞患者の予後改善を目指した新規出血リスクスコアの開発(分担：吉田)
奨学 寄附金	JCRファーマ		新規造血幹細胞マーカーPlxdc2による造血幹細胞の高純度での分離法の確立(久保田)

外部資金合計 ￥6,517,205

・2024年度 治験実施件数

新規 6件

継続 16件

うち、臨床試験推進部支援件数 8件

支援中の臨床研究

臨床腫瘍科：8試験

消化器外科：1試験

乳 腺 外 科：1試験

泌 尿 器 科：1試験

呼吸器内科：1試験

感染制御部：1試験

事務部

1 総括

事務部は、事務部長、副事務部長、理事室、総務課、財務課、施設課、医事課、企画経営課、広報課、計画推進室、好生館看護学院事務室の体制で業務を推進した。

2024年度においては、第4期中期目標期間中の3年目に当たる令和6年度計画を着実に実行に移すために、法人全体の意思決定機関である理事会、法人の業務運営及び法人経営に関する重要事項の審議機関である統括責任者会議、また病院の適正な運営等を推進する病院運営会議、経営戦略会議や医療安全管理委員会、院内感染対策委員会、防火・防災管理委員会、臨床研修管理委員会、各中央診療部の委員会等を所掌しながら理事長、館長、副館長の指導の下、法人運営、病院運営の基礎を担うべく活動した。

2 2024年度の特記事項

1) 組織改正について

2024年4月1日付で、以下の改正を行った。
・「乳腺外科」及び「プレストセンター」を廃止した。

2) 人材育成について

若手事務職員に当館の事務全般を幅広く理解してもらうことを目的に、2022年度から開始した「事務職員職務能力向上研修会」を引き続き実施した。

2024年度 事務職員職務能力向上研修会実績

開催日	演題名	発表者
10月2日 (水)	2年間、佐賀県庁で働いてきました！	計画推進室 副主査 川谷 祐貴
10月28日 (月)	何をしている？人事・労務係(労務担当)	総務課人事・労務係 主事 青木 力
	好生館多言語版ホームページの作製	広報課広報係 主事 重松 佳奈
	インターネット事前予約サービス「カルナコレクト」を通じた連携強化の実現	広報課 マーケティング係 主事 真子 歩都

1月17日 (金)	緊急時の備え	施設課施設管理係 技師 辻 俊一
	増築整備事業について	計画推進室 副主査 川谷 祐貴 技師 太田 匡哉

3 収支の状況

(単位：百万円)

科目	2024決算	2023決算	増減額
経常収益(A)	21,158	20,093	1,065
医業収益	18,644	17,561	1,083
看護師養成所収益	68	68	0
運営費負担金	1,260	1,260	0
その他	1,186	1,204	▲ 18
経常費用(B)	20,841	19,910	931
医業費用	19,304	18,502	802
看護師養成所費用	229	204	25
一般管理費	994	905	89
財務費用	314	299	15
経常利益(A-B)	317	183	134
臨時損益(C)	1	▲ 19	20
当期純利益(A-B+C)	318	164	154
前中期目標期間繰越積立金取崩額(D)	746	—	746
当期総利益(A-B+C+D)	1,064	164	900

1 経常収益の主な増減要因(全体で10.7億円の増)

- (1) 入院収益 8.8億円の増
(2) 外来収益 2.1億円の増

2 経常費用の主な増減要因(全体で9.3億円の増)

- (1) 人件費に関するもの 2.2億円の増
(2) 材料費に関するもの 5.0億円の増
(3) 減価償却費に関するもの 0.6億円の増
(4) その他経費に関するもの 1.2億円の増

4 主な業務実績

項 目	2024年度 (A)	2023年度 (B)	増▲減 (A－B)
入院収益	13,989百万円	13,108百万円	881百万円
外来収益	4,459百万円	4,249百万円	210百万円
延入院 患者数	150,349人	143,082人	7,267人
延外来 患者数	171,396人	172,287人	▲ 891人
入院単価 (円／人・日)	92,832円	92,746円	86円
外来単価 (円／人・日)	25,957円	24,572円	1,385円
平均在院 日数	9.88日	9.60日	0.28日
病床稼働率	91.5%	86.9%	4.6%

(文責：岡田 俊)

++ 総務課

1 組織の見直し等

2024年度は、6課・2室体制を維持し体制変更は実施しなかった。

2 職員数

2024年度の職員数は、前年度と比較して11名の増員となった。主な要因は、リハビリ件数の増加による理学療法士の増員、業務拡大による薬剤師の増員、また医療ソーシャルワーカーの欠員補充による増員（下表の「医療技術職」に計上）となっている。職種別での主な増減は以下のとおりである。

<医師>

- ・医師 2名減
(正1名減、期限付1名増、臨時2名減)

<看護師>

- ・看護師 9名増
(正5名増、臨時1名増、再雇用3名増)

<医療技術職>

- ・薬剤師 3名増(正2名増、期限付1名増)
- ・理学療法士 3名増(正)
- ・医療ソーシャルワーカー 4名増
(正3名増、期限付1名増)
- ・調理師、作業療法士、歯科衛生士、言語聴覚士、臨床心理士 各1名増
- ・管理栄養士、栄養士、調理員、診療放射線技師 各1名減

<事務その他>

- ・教員、研究員 各1名増(期限付)
- ・一般事務職 2名増(期限付)
- ・ナースエイド 3名減
(期限付4名増、臨時7名減)
- ・外来クラーク、病棟クラーク 各3名減(臨時)
- ・事務補助員、医師事務作業補助員 各1名減(臨時)

職員数の状況(2025年3月31日現在)

区 分	役員			一般職員			期限付職員			臨時職員			再雇用職員			合計		
	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減
医 師	4	4	0	110	109	△1	1	2	1	82	80	△2	0	0	0	197	195	△2
看 護 師	1	1	0	547	552	5	14	14	0	11	12	1	7	10	3	580	589	9
医療技術職	0	0	0	191	200	9	11	12	1	11	11	0	1	2	1	214	225	11
事務その他	1	1	0	96	98	2	28	34	6	189	174	△15	3	3	0	317	310	△7
合計	6	6	0	944	959	15	54	62	8	293	277	△16	11	15	4	1,308	1,319	11

3 職員採用

正職員採用のため、以下のとおり2024年度中途採用試験を6回、2025年度に向けた職員採用試験を11回実施した。

2024年度中途採用試験

区 分	実 施 日	応募人数	合格者数
臨床心理士	2024.11. 5	1名	1名
医療ソーシャル ワーカー	2024. 6.12	2名	1名
	2024.12. 3	1名	1名
診療情報管理士	2025. 2. 6	1名	1名
	2025. 2.26	1名	0名
	2025. 3.14	1名	1名

2025年度採用試験

区 分	実 施 日	応募人数	合格者数
看護師・助産師	2024. 6.15	19名	19名
	2024. 7. 6	54名	25名
薬剤師	2024.11.28	1名	1名
	2025. 3. 7	1名	1名
臨床検査技師	2024. 9. 5	8名	1名
臨床工学技士	2024. 8.28	2名	2名
診療放射線技師	2025. 3. 7	5名	1名
調理師	2024. 9.26	2名	2名
	2025. 2.17	1名	1名
事務職員	2024. 8.17	12名	4名
	2024. 8.31		
教員(助産学科)	2025. 2.18	1名	1名

4 職員の給与等

2024年度末現在の給料表別に見た平均年齢及び職員一人当たりの年間人件費は、以下のとおりである。昨年度と比較すると、2024年度は大幅なベースアップ及び賞与支給月数の増加が実施されたことから、人件費が全体的に増加している。ただし、特定職給料表及び医療職給料表（一）に該当する職員については、医師業績手当の支給額が減少したことにより、平均人件費は前年度よりも減少した。

給料表	平均年齢	平均人件費
特定職給料表	63歳	22,816,569円
医療職給料表（一）	46歳	19,987,709円
医療職給料表（二）	36歳	6,507,250円
医療職給料表（三）	37歳	6,769,729円
研究職給料表	52歳	9,406,564円
再雇用医療職給料表	62歳	4,371,885円
再雇用看護職給料表	63歳	4,725,067円
再雇用事務職給料表	63歳	4,676,635円
再雇用技能労務職給料表	61歳	3,870,373円
技能労務職給料表	37歳	4,916,453円
事務職給料表	40歳	6,013,549円
特定期限付給料表	63歳	11,236,987円

5 職員の健康管理

定期健康診断及び人間ドックの対象者は1,323名であり、受診者は定期健康診断（2024年5月2日、8日、15日、16日、20日実施）1,065名、人間ドック229名、計1,294名（受診率97.81%）だった。

また、院内感染防止等のためHBs血液検査、結核菌検査、インフルエンザ予防接種、新型コロナワクチン予防接種及びHPVワクチンを実施した。

さらに、メンタルヘルス対策及び過重労働対策等のために行っているストレスチェックは、7月1日～12日に実施し、対象者1,248名のうち1,213名（97.20%）が回答した。

（文責：堤 由起子）

++ 財務課

1 スタッフ

財務課は、財務係、契約係及び研究係により構成されており、2024年度は、課長1名、課長補佐1名、係長3名及び課員12名の体制で業務を遂行した。

2 活動実績

財務係は、精度の高い日次の業務を正確な月次決算及び年度決算の作成へとつなげ、その数値を経営戦略会議、病院運営会議等で月次の収支状況（年度の収支予測を含む）として報告することで、職員の経営意識の高揚を図るとともに、迅速かつ的確な経営判断を支援した。また、未収債権の管理に関しては、定例打合せを通じ、関連部署との連携を強化して未収金の発生防止に努めるとともに、やむを得ず発生した未収金については、文書・電話・出張による督促・催告を実施し、困難事案については弁護士法人に回収業務を委託するなど未収金の回収に注力した。

契約係は、医療機器、医薬品、診療材料、消耗品、給食材料等の購買事務に加え、治験や工事、委託などを含む幅広い契約事務を遂行した。購買に際しては、ベンチマークデータ等に基づき価格交渉を実施し、支出の削減に努めた他、契約監視委員会の意見を真摯に受け止めつつ、契約の適正性を確保した。

研究係は、研究費不正使用防止部門会議及び研究不正行為防止部門会議の事務局を担い、研究費の適正な使用及び研究の適正な実施を推進した。

3 今後の課題と展望

あらゆる経費が高騰している中でも、第4期中期目標で示された「同期間における累計経常収支の黒字化」の達成に向け、収益の確保及び費用の適正化の取組を加速する必要がある。

収益の確保に関しては、寄附の活性化を図る他、運営費負担金の適正化について適宜設立団体に働きかけを実施する一方、ゼロベースで費用の適正化に資するアイデアを考案し、組織を上げてその取組を実行する他、未収金の発生の抑制及び確実な回収に努めること等を通じ、費用の適正化を推進していく。

また、月次決算その他のデータを基に精度の高い収支予測資料を作成し、経営判断に資する情報をタイムリーに提供する役割を果たしていく。

（文責：長友 篤志）

++ 医 事 課

1 はじめに

医事課は、4月に組織編成が行われ、医事係・入院係・外来係・地域医療連携係・図書診療録係の5係で構成することとなった。

課長1名、課長補佐2名、係長3名、副主査13名、課員20名の39名を配置した。

2024年度の施設基準については、下記のとおり26件の新規申請を行った。

- 1) 急性期看護補助体制加算 2 25対1急性期看護補助体制加算（看護補助者5割以上）
- 2) 脳卒中ケアユニット入院医療管理料（告示4 早期栄養介入管理加算）
- 3) 医療DX推進体制整備加算
- 4) 抗菌薬適正使用支援加算
- 5) バイオ後続品使用体制加算
- 6) 特定集中治療室管理料6
- 7) 難治性がん性疼痛緩和指導管理加算
- 8) 慢性腎臓病透析予防指導管理料
- 9) がん薬物療法体制充実加算
- 10) ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（髄液）
- 11) 経頸静脈的肝生検
- 12) ストーマ合併症加算
- 13) 緊急穿頭血腫除去術
- 14) 胸腔鏡下肺切除術（区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 15) 腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
- 16) 尿道狭窄グラフト再建術
- 17) 小児入院医療管理料3
- 18) 外来・在宅ベースアップ評価料1
- 19) 歯科外来・在宅ベースアップ評価料1
- 20) 入院ベースアップ評価料78
- 21) 不整脈手術（左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）に限る。）
- 22) 腹腔鏡下仙骨脛固定術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 23) 腹腔鏡下仙骨脛固定術
- 24) 経皮的下肢動脈形成術
- 25) 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
2 エキシマレーザ血管形成用カテーテルによるもの
- 26) 腹腔鏡下腔断端挙上術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）

診療報酬改定により、特定入院料は小児入院医療管理料3を取得することができたが、特定集中治療室管理料は要件変更により6を取得することとなったため、減収の影響が大きかった。また、入院外来ともにベースアップ評価料を取得したが、人事委員会勧告の改定率をはるかに下回る収入となり、改定分を補填できる収益額とはならなかった。

2 診療実績

(1) 実診療額

【入院】

区 分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
実診療額 (千円)	10,241,884	11,411,472	12,976,732	13,270,339	13,957,258
一人当たり 診療額(円)	83,820	85,079	91,582	92,746	92,832

【外来】

区 分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
実診療額 (千円)	3,664,738	3,925,862	4,023,836	4,233,483	4,448,992
一人当たり 診療額(円)	23,312	23,141	23,219	24,572	25,987

2024年度の実診療額は、入院139億5千7百万円（対前年比6億8千6百万円の増）、外来44億4千8百万円（対前年比2億1千5百万円の増）となっており、入院、外来合わせて5億3百万の増となった。

また、1人当たりの入院診療額は92,832円（対前年度比86円の増）、外来診療額は、25,957円（対前年度比1,385円の増）となっており、最高額を更新した。

主な要因としては、外来診療は抗がん剤治療等による高額薬剤使用により収入増となり、入院診療は新入院患者数及び手術件数増により増収となった。

(2) 査定・精度管理

区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2024年-2023年
入院	4,537千点 0.47%	4,702千点 0.42%	4,881千点 0.39%	4,677千点 0.36%	4,980千点 0.36%	303千点 0.00%
外来	1,282千点 0.36%	1,301千点 0.34%	1,357千点 0.34%	1,253千点 0.30%	1,241千点 0.28%	▲12千点 ▲0.02%

査定については、上記表のとおりである。

入院は、2024年度4,980千点（0.36％）であり、前年度に比べて303千点増加している。外来は、2024年度1,241千点（0.28％）であり、2023年度に比べて▲12千点（▲0.02％）減少している。入院外来いずれも年度目標の0.38％をクリアした。

外来レセプトは、2023年10月よりAIレセプトチェッカーを導入し、点検業務を行っている。入院レセプトについても2025年9月に本格導入の予定である。

入院は、「詳記不足、輸血施行病名と詳記不足」、外来は「CT/MRI、各検査項目の連月施行」などが多く査定された。今後も主治医との連携を図りながら、各個人のスキルアップを図り、チェック体制を強化するなど査定減に向けた取り組みを引き続き行っていきたい。

また、2024年度も、外部委託会社による手術精度調査（入院）を行い、請求漏れ対策及び職員研修を実施した。

（3）人間ドック

人間ドックについては、2020年度1,042件、2021年度1,153件、2022年度1,235件、2023年度1,286件、2024年度911件となり、対前年度比375件減であった。

当館の健診関連事業のうち、人間ドック1日・2日コース及び健康診断については2024年度から段階的に縮小し、2027年3月末日をもって閉鎖する方針となっている影響である。

なお、脳ドック及び心臓ドックは2024年度に廃止した。

3 今後の目標

入院については、診療報酬請求のチェック体制を強化し、請求もれや査定率の減少など、スキルアップを図りながら、さらなる増収を目指す。また、DPCコーディングや副傷病名追加に伴う増収対策にも並行して取り組んでいきたい。

外来については、委託契約であるが、業務能力の向上・サービス強化などに取り組み、請求精度を高め、未収対策にも日々取り組む。2023年に導入したAIレセプトチェッカーにより、外来の査定率は格段に減少している。今後は入院レセプトとの縦覧点検も行い、査定率の減少に一層取り組みたい。

働き方改革としては、AIレセプトチェッカーの本格稼働や業務のRPA化による業務負担軽減に引き続き取り組んでいきたい。

（文責：田中 佳奈）

企画経営課

1 スタッフ

課長：1名、係長：1名、副主査：2名、臨時職員：1名の5名で構成されている。

2 活動実績

①経営戦略策定等業務

隔週火曜日に開催される経営戦略会議の運営および経営改善に向けた提案を実施した。また、毎月第四火曜日に開催される病院運営会議へのトピックス提供や会議運営のための各種コーディネートを実施した。さらに、各診療科・部門と理事長・館長・事務部長ヒアリングの計画作成と実施支援を行った。

②年度計画の策定

2025年度計画を策定し、事務部内で検討の後、統括責任者会議、理事会を経て、2025年3月佐賀県に報告された。

③年度実績の自己評価の策定

2023年度計画の実績について自己評価案を取り纏め、評価委員会へ佐賀県を通じて提出した。また、2024年度計画の進捗状況は、各部門の月次状況報告を管理し、遅れがみられる部門には対策案などの提示等による是正依頼および支援を行った。

④ベンチマークシステムの活用

DPC特定病院群へ昇格するためにベンチマークシステム等を活用し、その要件である「診療密度」「外保連指数」「手術件数」等のモニタリングを継続した。また改善が必要な項目については、関連部署へのデータ提供等による是正依頼および支援を行った。

⑤QI (Quality Indicator) プロジェクト等

日本病院会、CQI研究会が実施しているQIプロジェクトに引き続き参加した。また、好生館のQI窓口として、データ収集・登録業務、及び分析結果のフィードバックを行った。

⑥経営改善に関する各種業務

経営及び業務改善に向けて、以下のような業務を実施した。

- ・令和6年度経営戦略会議方針について
- ・令和6年度診療科データ（4月～3月）
- ・診療密度対策におけるエコーの考え方及びオーダー実施率100%への検討について
- ・DPC期間Ⅱ適合状況分析データ
- ・収支予測

- ・月曜日・連休明け・祝日明けの予定手術入院日について
- ・6月【速報値】（救命救急・ICU・SCU）の前年比較について
- ・特別感染症患者の療養管理体制
- ・令和6年度計画進捗状況（実診療額）
- ・令和5年度診療科業績評価データ概況
- ・7月・8月・9月の救急外来について
- ・7月・8月のDPC期間Ⅱジャストの場合の増収について
- ・神経内分泌腫瘍（ルタテラ）における収支について
- ・令和6年9月のエコー対策の報告
- ・年末年始（長期連休）の対応について
- ・令和6年度地域医療連携懇談会開催結果報告
- ・令和6年度医療DX推進計画進捗報告
- ・救急外来受診患者に対する保険外併用療養費の設定について
- ・生活習慣病管理料とがん治療連携計画策定料に関する回答について
- ・個室料金及び個室料金シミュレーション
- ・診療情報提供書 算定状況
- ・入院診療単価分析・特定入院料毎の診療単価分析について
- ・令和6年11月と令和5年11月の手術料
- ・令和7年4月以降の診療科ベッド数の見直しについて
- ・初診紹介患者の状況について

3 教育・研究・その他の活動

下記セミナーに参加した。

- ・日病データ（医療オープンデータ）セミナー 2024 WEB（一般社団法人日本病院会）

4 今後の課題と展望

①経営改革

安定的な健全経営体質を作るために、病院経営コンサルタントの効果的な活用、診療報酬改定への組織対応の充実。

②継続的な質改善

医療・経営の質改善継続のためにTQM活動への取り組み

③経営マインドを持った事務職員の育成

病院経営を俯瞰できるマネジメント力を兼ね備えた事務職員の育成を行う。

（文責：今池 彰）



施設課

2024年度の施設の修繕、及び、維持保全の状況は以下のとおりである。

1 2024年度の主な工事について

病院棟1階、研修棟及び保育所棟照明器具LED化工事	49,500,000円
直流電源装置蓄電池更新及び部品交換作業	35,750,000円
貫流ボイラ取替工事	23,650,000円

2 修繕費の推移について

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
修繕件数(件)	123	108	167	167
修繕金額(円)	28,775,519	40,097,980	77,736,756	76,761,749

3 委託費の推移について

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
委託件数(件)	91	96	83	93
委託金額(円)	258,310,742	262,747,178	271,177,737	280,199,805

上記委託費のうち主な業務委託費については、次のとおりである。

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
中央監視業務委託	47,163,600	47,744,400	49,123,800	50,503,200
清掃業務委託	103,624,400	103,382,290	103,578,640	102,960,000
産業廃棄物処理委託	34,303,838	38,630,193	40,646,596	42,396,081

4 光熱水費の推移について

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
電気料金(円)	176,605,580	232,254,909	209,274,766	227,637,322
(月平均(円))	(14,717,132)	(19,354,576)	(17,439,564)	(18,969,777)
水道料金(円)	16,573,931	19,069,809	15,866,697	16,038,770
(月平均(円))	(1,381,161)	(1,589,151)	(1,322,225)	(1,336,564)
下水道料金(円)	22,695,528	25,279,563	21,204,358	21,682,738
(月平均(円))	(1,891,294)	(2,106,630)	(1,767,030)	(1,806,895)
ガス料金(円)	60,192,732	73,081,151	56,431,534	63,814,838
(月平均(円))	(5,016,061)	(6,090,096)	(4,702,628)	(5,317,903)
A重油(円)	25,880,800	27,548,720	29,247,680	26,371,080
(月平均(円))	(2,156,733)	(2,295,727)	(2,437,307)	(2,197,590)
合計(円)	301,948,571	377,234,152	332,025,035	355,544,748
(月平均(円))	(25,162,381)	(31,436,179)	(27,668,753)	(29,628,729)

(文責：村岡 浩文)

++ 理事室

1 スタッフ

理事室長1名、係長1名及び担当2名の計4名が配置されている。

2 活動実績

(1) 理事会の開催

法人運営の重要事項を審議・決定するため、地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館理事会規程に基づき理事会を開催した。

■ 理事会開催状況

会議名称	開催日	主な議案等
第1回理事会	2024.6.27	令和5年度決算(案)について、出資等に係る不要財産の納付について
第2回理事会	2024.9.25	理事長の業績手当について
第3回理事会	2024.12.2	職員給与改定について
第4回理事会	2025.3.28	令和7年度計画(案)について、職員給与改定について、再雇用規程改正(案)について、職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する規程等の改正(案)について、好生館看護学院規程の改正(案)について

(2) 統括責任者会議の開催

法人の業務運営や経営に関する重要事項の検討や情報の共有を行うため、毎週火曜日に常勤理事及び理事長特別補佐を構成員とする統括責任者会議を開催した。

■ 構成員

樗木理事長
 田中副理事長（館長）
 前理事（副館長）
 内藤理事（副館長）
 岡田理事（事務部長）
 宮地理事（看護部長）
 緒方理事長特別補佐（副館長）
 岩永理事長特別補佐（統括診療部長）
 三好理事長特別補佐（統括診療部長）
 草葉理事長特別補佐（薬剤部長）

■ 事務局

城島副事務部長
 碓副事務部長
 釜田理事室長

(3) 内部統制の推進

法人に対する社会的信頼を確保し法人の使命と社会的責任を果たすため、内部統制が有効に機能しているか検討・評価するために、内部統制に関するモニタリング調査を実施。

また、法人の規程・規則等の整備に当たり、法や他の規程・規則等と適合したものとなるよう各部署への支援を行った。

(4) 好生館シンポジウムの開催

例年、地域医療の中心的役割を担う病院として医療従事者のための幅広い知識習得を目的としたシンポジウムを開催。2024年度は「地域医療構想の現状と今後の取組について」をテーマに2025年2月7日（金）に佐賀市医師会館にて開催した。

■ プログラム

・開会挨拶

地方独立行政法人佐賀県医療センター
好生館 樗木 等 理事長

・特別講演Ⅰ

『新しい地域医療構想の考え方』

学校法人産業医科大学

医学部公衆衛生学教室

教授 松田 晋哉 先生

・特別講演Ⅱ

『地域医療構想の振り返りと今後の展開について』

佐賀県健康福祉部医務課医療企画担当

係長 権藤 正浩 先生

・閉会挨拶

佐賀県医療センター好生館

田中 聡也 館長

(5) 特別企画セミナーの開催

例年、医療従事者のための幅広い知識習得を目的とした特別企画セミナーを開催。2024年度は「『佐賀藩好生館の萌芽より近代医学にいたる先達の足跡』の全5回シリーズの3回目から5回目と、「特定行為に係る看護師の研修制度について」の計4回のセミナーを開催した。

開催日	タイトル	講師
2024年4月10日	第3回「江戸時代の外科学の発達と好生館での解剖」 －人体を見る眼がどのように発達してきたか、外科学の 発達と解剖の知見の広がりからさぐる－	佐賀大学地域学歴史文化研究センター 特命教授 青木 歳幸 先生
2024年5月8日	第4回「日本薬事制度の成立に好生館が果たした役割」 －佐賀藩施薬局から近代司薬場の設立と薬剤師制度の成 立に関わった佐賀人－	佐賀大学地域学歴史文化研究センター 特命教授 青木 歳幸 先生
2024年6月10日	第5回「西洋医学教育の発達と好生館の医学教育」 －好生館蔵書・洋書・翻訳書などから好生館の西洋医学教 育の実態を紹介する－	佐賀大学地域学歴史文化研究センター 特命教授 青木 歳幸 先生
2024年10月29日	看護師による特定行為の研修制度について	厚生労働省医政局看護課 課長補佐 初村 恵 先生

(文責：釜田 里奈)

計画推進室

1 スタッフ

計画推進室は、室長以下、建築・機械・電気の各技師と事務職員の計5名が配置されている（室長及び建築・機械・電気の各技師は県からの派遣職員）。

2 活動実績

第4期中期計画に基づき好生館が担うべき役割を達成するため、(1) 高度急性期・救急医療機能の充実 (2) 災害時医療機能の充実 (3) 地域医療連携・入退院支援機能の充実 (4) 質の高い職場環境の確保を基本方針とし、増改築等整備事業を計画的に推進している。

2024年度は、電気設備工事及び機械設備工事の発注を行った。また、2023年度に着手した準備工事（増築棟建設予定地にある構造物の機能移転のための工事）が完了し、増築棟建設予定地の構造物の解体を行い、増築棟建設工事に着手した。

3 今後の課題と展望

2025年度に増築棟が竣工し、事務部門等の増築棟へ移転後、2026年度には既存病院棟の改修工事に本格的に着手し、2027年度末には増改築等整備事業全体の完了を予定している。

今回の増改築等整備事業は病院を運営しながらの工事であることから、患者等利用者の安全と利便性に配慮しながら円滑な工事の進捗を図っていきたい。

また、建築資材や労務費の高騰など事業費増嵩の要因となる事象が継続して見られることから、その動向に注視していく必要がある。

（文責：副島 聡子）

++ 広報課

1 スタッフ

課長1名、広報係員1名、マーケティング係員1名に加え、臨時職員2名の体制で業務に当たった。

2 活動報告

(1) 連携医療機関訪問活動

診療科・部門の2024年度目標に「初診紹介患者数」に関するものを掲げた診療科を中心に、その達成を支援する観点から、診療部長同行訪問を実施した。(訪問実施診療科 8 診療科・訪問した連携医療機関 113施設(延べ))

また、連携医療機関に対し、適時・適切に情報提供を行う観点から、広報課職員による単独訪問を実施した。(25施設)

(2) 県民公開講座(一般・がん)

県民に正確な健康情報を提供することを目的として、県民公開講座(一般・がん)を開催した。

・一般県民公開講座

「専門医と学ぶ 血圧の“ホント”ー健康長寿の秘訣は食事と運動にあり!ー」

2024年8月3日(土)

8/22にアーカイブ動画をYouTubeで配信

・がん県民公開講座

「がん調査隊が行く! 2〜大腸がんの傾向と対策〜」

サガテレビにて2週にわたり放送

前編 2025年1月18日(土)

後編 2025年1月25日(土)

(3) 地域医療連携懇談会

連携医療機関の皆様にご当館の情報を正確に伝え、信頼を獲得し、もって初診紹介患者の増加につなげることを目的として、地域医療連携懇談会を開催した。

・講演

「“パートナーシップ”で築く高度・先進の地域医療」

「好生館整形外科の現状とトピック」(整形)

「最新の低侵襲消化管治療(Underwater ESD・POEM・LECS)」(消内)

「脳卒中発症/再発防止のための新たな試み」(脳内)

「がん地域連携パスの現状」(地連)

・意見交換会

(4) がん教育総合支援事業

がんを正しく理解し、健康や命の大切さについて考え、適切な態度と行動をとることができる児童・生徒の育成を目指して、佐賀県教育委員会において展開されている「がん教育総合支援事業」に協力し、「がんの専門家」をがん教育推進校に派遣して、講演を実施した。(派遣先7施設・受講者数959名)

(5) 広報誌等の発行

県民や連携医療機関の皆様に向けて当館の情報を発信するため、各種の広報誌等を発行した。

・広報誌

「好生館だより」(計8,200部/4回)

・パンフレット

「診療のご案内」(1,300部)

「病院案内」(1,350部)

「三つ折りリーフレット」(800部)

・学術誌等

医学雑誌「好生」(750部)

「年報2023」(110部)

緩和ケア病棟25周年記念誌(1,000部)

(6) ホームページの運用

県民や連携医療機関の皆様に向けて当館の情報を発信するため、ホームページを運用した。

・主な取組事項

リクルートサイトリニューアル

食と健康ページの移設

英語表記の更新

(7) SNSの運用

ホームページに加えて、SNS(LINE公式アカウント、Instagram、YouTube、Facebook及びX)を運用し、診療科・部門の取組みの紹介や、健康・医療に関する情報などを発信した。

(8) TVCM製作・放送の実施

好生館の“価値”を県民に刷り込み、「かかるなら好生館に!」とっていただくことをねらいとし、TVCMを製作し放送を実施した。

(9) 各種チラシのデザイン

館内外でのイベント等の周知に用いられる各種チラシについて、部署の依頼を受け、デザインを行った。

(10) その他

その他、次の活動を行った。

- ・ マスコミ対応
- ・ デジタルサイネージの運用
- ・ 歴史コーナーの運用 他

3 今後の課題と展望

引き続き、「集患・増患」という広報課のミッションの達成に向け、「好生館の価値を連携医療機関の先生方・県民の皆さんに正確にお伝えし、好生館のファンになっていただく」という戦略に基づき、様々なメディアやツールを有効に活用しつつ、広報施策を展開していく。

(文責：城島 賢二)



第33回 好生館医学会

年間テーマ	災害でも医療を止めるな！－BCPを錬磨する－		
開催日	演題名	発表者・講師（敬称略）	参加者
キックオフ会 （6月13日）	令和6年能登半島地震 好生館DMATの対応	災害対策室長（救急科医長） 小山 敬	51名
	令和6年能登半島地震における日本病院薬剤師会 石川県庁現地調整本部活動	薬剤部 副主任薬剤師 田中 康弘	
7月例会 （7月18日）	NBCテロ災害総論 －特にCテロについて－	好生館医学会準備委員会 委員長 岩村 高志	53名
	災害時の医療情報	医療情報部 医療情報係主事 峰 和樹	
	災害発生時における放射線部の対応～原子力災害も含めて～	放射線部 副主任診療放射線 技師 江口 寛晃	
	総合当直で経験したFisher症候群の一例	総合教育研修センター 臨床研修医 福田 ゆい	
特別講演 （9月3日）	東京地下鉄サリン事件に学ぶ 化学テロ対策	法務省矯正局大分刑務所 医療部保険課長 奥村 徹	72名
9月例会 （9月19日）	佐賀県医療センター好生館の災害対応（施設・設備）	事務部施設課 課長 村岡 浩文	41名
	災害発生時、医療機器の使用について	MEセンター 臨床工学技士 平野 徳章	
	災害発生時の対応～栄養管理部の場合～	栄養管理部 管理栄養士 川崎 愛弓	
	大量血胸を合併した神経線維腫症1型の一例	総合教育研修センター 臨床研修医 原口 佳奈子	
11月例会 （11月21日）	その時薬剤部が動いた～災害対応編～	薬剤部 副主任薬剤師 田中 康弘	53名
	災害発生時の臨床検査について	検査部 副主任臨床検査技師 香月 万葉	
	災害におけるリハビリテーション	リハビリテーションセンター科 部長 山之内 直也	
	心窩部痛を主訴にwalk-in受診したSAMの1例	総合教育研修センター 臨床研修医 森 桃子	

開催日	演題名	発表者・講師（敬称略）	参加者
1 月例会 （1 月16日）	災害時の医師の働き方	Medical Link Office Director 松石 英城	46名
	災害発生時のMSWの活動について	相談支援センター 副主査 （MSW） 原田 健作	
	災害に備えたNICUにおける新生児搬送について	5 階東病棟 助産師 森脇 舞	
	後頸部痛を主訴に時間外外来を受診した脳脊髄液漏出症の1 例	総合教育研修センター 臨床研修医 小島 華子	
総会 （3 月15日）	研修医の成長とこれからの挑戦	総合教育研修センター 臨床研修医 星野 滉大	57名
	リンパ浮腫患者の運動習慣獲得に向けた多職種連携によるクリニカルパス作成及び効果検証	リハビリテーションセンター 副主任理学療法士 押切 洋子	
	納豆菌と鑑別不能であった枯草菌菌血症分離株の全ゲノム解析	検査部・病理部 副主任臨床検査技師 山口 健太	
	佐賀県医務課での派遣研修(出向)の経験について	事務部計画推進室 副主査 川谷 祐貴	
	【特別講演】BCPを錬磨する	国際医療福祉大学熱海病院 病院教授/日本災害医学会BCP 研修検討委員会委員長 堀内 義仁	
	【退任講演】好生館整形外傷の変遷	副館長 前 隆男	

++ 県民公開講座 他

(1) 一般県民公開講座

開催日	内 容
2024年8月3日(土)	○会場 アバンセホール ○テーマ 「専門医」と学ぶ血圧の“ホント”ー健康長寿の秘訣は食事と運動にあり！ー ○講師及び演題 循環器内科部長 吉田 敬規 「高血圧を知ろう！」 脳神経内科部長 江里口 誠 「脳を守る最初の一手！」 管理栄養士 木下 遙香 「食事でする！高血圧症予防」 副リハビリ技士長 納富 里美 「運動でする！高血圧症予防」 ※講座の様子を収録・編集の上、YouTube動画として配信

(2) がん県民公開講座

放送日	内 容
サガテレビ 2025年1月18日(土) 2025年1月25日(土)	○テーマ 「がん調査隊が行く！2～大腸がんの傾向と対策～(前編・後編)」 ○出演者 がん調査隊 隊員 ナタルラック のなか・美意識タカシ 氏 がん専門医 がんセンター長 吉本 五一 (がんの基本情報) 〃 消化器外科部長 池田 貯 (大腸がんとは・検診の重要性) 〃 消化器内科部長 富永 直之 (内視鏡検査・治療) 〃 消化器外科医長 古賀 靖大 (大腸がんの治療法) 認定がん専門相談員・MSW 原田 健作 (がん相談支援)

令和6年度 地域医療従事者研修会 (主催：地域医療連携センター)

開催日	タイトル	講 師
新型コロナウイルス感染対策のため、研修会は中止となった		